

- 一 鍋 大小 各一箇
 - 二 茶碗 五箇
 - 三 手桶 一荷
 - 四 小桶 一組
 - 五 擔桶 一荷
 - 六 柄杓 一箇
 - 七 燈具 一箇
 - 八 鐵瓶 一箇
- 第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス
- 一 四布 三枚
 - 二 三布 二枚
- 第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

- 一 鍬 大小 各一挺
 - 二 唐鍬 大二挺 小一挺
 - 三 砥 荒砥、中砥、鎌砥 各一箇
 - 四 山刀 一挺
 - 五 鑪 二挺
 - 六 鑪 一挺
 - 七 鐮 大小 各一挺
 - 八 鎌 柴刈、草刈 各一挺
 - 九 筵 二十枚
 - 十 熊手 二挺
 - 十一 培養桶 一箇
- 右ニ掲クル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼杵一箇ヲ給與ス
- 第九條 種物ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給

シ又時宜ニ依リ代金ヲ給與スルコトヲ得

- 一 麻種子 一斗
- 二 大麥 一斗
- 三 小麥 一斗
- 四 大豆 一斗
- 五 小豆 五升
- 六 馬鈴薯 四斗
- 七 蠶卵紙 四半枚

第十條 扶助米及鹽菜料ハ移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間左ノ區分ヲ以テ
 毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日
 數ニ乘シテ給額ヲ定ム

| 給與年限 | 區分 | 扶助米一箇月ノ給額 |
|----------|----|-----------|
| 一人一箇月ノ給額 | | |

| 第一期 | 第二期 | 第三期 |
|----------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 移住ノ月ヨリ滿二箇年間 | 第一期後滿一箇年間 | 第二期後滿二箇年間 |
| 甲 乙 丙 | 甲 乙 丙 | 甲 乙 丙 |
| 額 額 額 | 額 額 額 | 額 額 額 |
| 玄米二斗二升五合 玄米一斗五升 玄米九升 | 玄米一斗三升五合 玄米九升 玄米五升四合 | 玄米一斗三升五合 玄米四升五合 玄米一升八合 |
| 四十五錢 三十五錢 三十五錢 | 三十五錢 二十五錢 二十五錢 | 三十五錢 三十五錢 三十五錢 |

甲額ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ニ、乙額ハ七歳以上十五歳未滿及六十歳以上ノ者ニ、丙額ハ七歳未滿ノ者ニ給與ス

扶助米又鹽菜料ハ毎月一日ノ現員ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 移住地到着後五日以内ハ扶助米及鹽菜料ニ換へ一人一日ニ付三十錢
 額ハ半額 以テ精米ニ換へ給與スルコトヲ得

第十二條 扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

一 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米

- 及鹽菜料ヲ給與ス
- 二 附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ縁故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
 - 三 移住後滿三箇年以内ニ於テ婚姻、縁組及出産ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
 - 四 家族中恩給、扶助料其他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス
 - 五 屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ並ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米及鹽菜料ヲ控除ス
 - 六 屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム
 - 七 第一第三ニ該ル者ハ其戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期トス
- 第十三條 屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シニ事業場四棟ヲ給與ス
- 實際ノ景況ニ由リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟トナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村分ヲ併セテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲メニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徴收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

一 五圓

七歳以上ノ者

二 二圓五十錢

七歳未満ノ者

附則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ從前ノ規程ニ依ル

陸軍省令第二十六號

(明治廿七年十二月二十八日)

死傷者手當金給與規則

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ書類ヲ具シ居住地所管ノ師團長又ハ屯田兵司令官ニ願出ツヘシ

死 亡 者

一 願書(第一書式) 履歷書、戶籍書寫、死亡報告書又ハ軍醫死亡證書若クハ主治醫死亡證書

傷 疾 疾 病 者

一 願書(第二書式) 履歷書、軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷書

第二條 師團長又ハ屯田兵司令官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ陸軍大臣ヘ上申スヘシ

第三條 本令第九條ノ死者遺族ハ同戶籍内ニ在ル寡婦、孤兒、父母、祖父母、兄弟、姉妹等トス

但手當金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下本文ノ順次ニ依ル

第四條 本令第十條ニ掲クル慰勞金ハ所屬長官審ラカニ事實ヲ調査シ其金額ヲ定メ意見ヲ具シ順次陸軍大臣ヘ上申スヘシ

第五條 本令第一條第二項ニ該ル區域ハ特設部及特設隊要塞砲兵隊ニ屬スルモノト

死傷者手當金給與規則自第二條至第五條

第六條 本令第二條傷痍疾病ノ等差ハ明治二十五年當省達第九十九號陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ヲ適用ス

第七條 本令第三條第四條第五條士官下士ニ準スヘキ職務ノ區分雇員ニ在テハ士官下士ノ職務ヲ命シタル者ハ士官下士ニ兵卒ノ服スヘキ役務ニ從事シタル者ハ卒ニ準シ船舶ノ船員鐵道從事員ニ在テハ左ノ區分ニ依ル

船舶船員士官ニ準スヘキ者

一 百噸以上ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長

同下士ニ準スヘキ者

一 百噸未満ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長、水夫長、事務員、大工、楫取、油差、航海科生徒、機關科生徒

同卒ニ準スヘキ者

一 倉番、水夫、火夫、石炭夫、ランプ番、小使、料理人

鐵道從事員下士ニ準スヘキ者

一 驛長、助役、豫備助役、機關庫主任、保線手其他之ニ等シキ職務ニ從事スル者

同卒ニ準スヘキ者

一 貨物掛、小荷物掛、車長、電信掛、豫備電信掛、驛長書記、機關方、保線助手其他之ニ等シキ職務ニ從事スル者

第八條 本令附表備考ニ掲クル治療費ハ所屬部隊長軍醫診斷證書ニ依リ其金額ヲ定メ適宜支給スヘシ

第一書式 (用紙美濃白紙正副二通)

弔祭料並遺族扶助料願書

雇員(備人) 故 姓 名

何年何月日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙履歷書戶籍調書死亡診斷證書相添此段奉願候也

元第何師團何部何隊所屬
 何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
 何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留
 元雇員(傭人)故姓名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)
 寡婦 姓 名 印
 親族 姓 名 印
 親族 姓 名 印
 同 親族 姓 名 印
 親族ナキトキハ隣佑戸主二名連署スヘシ
 (師團長)屯田兵司令官姓名殿
 前書之通相違無之候也

第二書式 (用紙美濃白紙正副二通)
 本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓 名 印
 手當金願書

何年何月日何所ニ於テ何々ノ際傷痕ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月日解雇(傭)ヲ命
 セラレ候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別

紙履歷書診斷證書相添此段奉願候也

元第何師團何部何隊所屬
 何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族平民
 何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留
 雇員(傭人) 姓 名 印
 師團長(屯田兵司令官)姓名殿
 前書之通相違無之候也

本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓 名 印

海軍省令第十六號 (明治二十七年十二月二十八日)

死傷者手當金給與細則

第一條 明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ死歿若クハ傷痕疾病ノ爲メ手當金ヲ
 請求セントスルトキ死歿者ハ第一書式、傷痕疾病者ハ第二書式ノ各請求書ニ證據
 書類ヲ附屬シ艦隊ニ屬スルモノハ本管鎮守府司令長官ニ其他ハ總テ所管長官ニ請

死傷者手當金給與細則第一條

求スヘシ

第二條 鎮守府司令官長官若クハ所管長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ルトキハ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 扶助料又ハ弔祭料ヲ受クヘキ遺族ハ死者ト同戶籍ニアル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トス

扶助料又ハ弔祭料ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス以下前項ノ順次ニ依ル
第四條 慰勞金ヲ給與セントスルモノハ所屬長其勤勞ヲ考查シ之カ金額ヲ定メ意見ヲ附シ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

第五條 勅令第百六十四號第一條第二項ノ戰地ニ非ラサルモ公務ノ爲メ死傷シタルモノ、區域ハ左ノ如シ

- 一 出征事務ニ關シ戰地ニ往復スル者
- 一 出征事務ニ關シ使用スル船舶ニ從事スル者
- 一 戰備完成ノ艦船艇ニ從事スル者

一 防禦事務ニ關シ其業務ニ從事スル者

一 臨時特設部所ニ屬スル者

一 前諸項ノ外出征事務ニ關シ臨時ニ生シタル業務ニ從事スル者

第六條 勅令第百六十四號第四條ノ傷痍疾病等差ヲ定ムルハ海軍軍人傷痍疾病恩給等差例ヲ適用ス

第七條 勅令第百六十四號第三條第四條第五條ノ軍艦乘組備人並ニ官用船舶船員ニシテ士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ左ノ如シ

| | | |
|----------|-------|-----|
| 士官ニ準スヘキ者 | 事務員 | 從僕 |
| 船長 | 通辨 | 剃夫 |
| 運轉手 | 大工 | 倉番 |
| 機關手 | 楫取 | 水夫 |
| 事務長 | 油差 | 火夫 |
| 下士ニ準スヘキ者 | 航海科生徒 | 石炭夫 |

機關手心得若クハ見習

機關科生徒

ランブ番

運轉手心得若クハ見習

卒ニ準スヘキ者

小使

水夫長

割烹

料理人

第八條 自己治療ヲ許可シタル傷痍疾病者ニ給スル治療費ハ所屬長ニ於テ軍醫若クハ主治醫ノ診斷書ニ依リ適宜金額ヲ定メ支給スヘシ

第一書式 用紙美濃紙正副二通

弔祭料並扶助料請求書

何 職 故 氏 名

右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙證據書類相添此段請求候也

元海軍何々所屬

何府何市區何町何番地華族(平民)

何府何市區何町何番地寄留

元何職故氏名寡婦(孤兒父母祖父母兄弟姊妹)

年 月 日

氏 名 印

親 戚 氏 名 印

親 戚 氏 名 印

親戚ナキトキハ居住地ノ戶主二名連署スヘシ

職 爵 氏 名 殿

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

附屬スヘキ證據書類

履歷書

戶籍書寫

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫死亡證書又ハ主治醫死亡證書若クハ死亡報告書

第二書式 用紙美濃紙正副二通

手當金請求書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痕ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日何病院ニ入院ノ末解雇(解僱)セラレ候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別紙證據書類相添ヘ此段請求候也

元海軍何々所屬

何府何市區何町何番地士(族)平民

何縣何郡何市區何町何番地寄留

年月日

元何職

氏

名

印

職尊氏名殿

前書之通相違無之候也

年月日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏

名 印

附屬スヘキ證據書類

履歷書

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷證書

閣令第九號 (明治二十七年十二月十四日)

勳章年金支給細則

第一條 勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作り之ヲ授與スヘシ

第二條 賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功級若クハ勳

勳章年金支給細則第一條第二條

等、年金額證書ノ番號授與ノ年月日並年金支給主管ノ地方廳ヲ大藏省ニ通牒シ同省ハ之ヲ該地方廳ニ通知スヘシ

第三條 年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス

年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第四條 年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩回ニ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ支給ス

第五條 金鷄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル

第六條 年金受領者年金ヲ受取ラントスルトキハ年金證書ヲ當該官吏ニ示シ受領者タルコトヲ證明スヘシ

第七條 年金ハ受領者ノ請求ニ依リ其ノ本籍地又ハ寄留地ノ地方廳ニ於テ支給スヘシ

シ年金證書ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ支給ヲ受クヘキ地方廳ヲ指定シタル書面ヲ賞勳局ニ差出スヘシ

第八條 年金受領者年金支給主管廳ノ轉換ヲ要スルトキハ現主管廳ニ届出ヘシ現主管廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ新主管廳ニ通知シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通報スヘシ

第九條 年金受領者死亡シタルトキハ遺族又ハ親戚ヨリ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其證書ヲ收メ賞勳局ニ還納スヘシ
金鷄勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

年金證書還納アリタルトキハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十條 遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

- 一 寡婦
- 二 孤兒
- 三 父
- 四 母
- 五 祖父
- 六 祖母

孤兒數人アルトキハ家名相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條 此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未満ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條 年金ヲ繼受シタル者死亡シシ戸籍ヲ去リ又ハ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルトキハ第十條ノ順序ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ者ニ之ヲ賜フ

年金ヲ繼受シタル寡婦再婚シタルトキ又ハ孤兒年齢二十歳ニ達シ若クハ結婚シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 年金ヲ繼受シタル者年金支給ヲ受ケサル前ニ於テ前條ノ事故生シタルトキハ其ノ期ノ年金ハ次ノ繼受スヘキ者ニ賜フ

第十四條 年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書(後見人アレハ後見人連署スヘシ)ニ親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長戸長トス以下之ニ倣フ)ノ證印ヲ受ケ且市町村長ノ證明シタル

ル戸籍ノ寫ト年金證書トヲ添付シ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ査覈シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第十五條 賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ年金支給主管ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十六條 遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條 勳章ヲ有スル者犯罪ノ訴ヲ受ケ拘留(保釋責付亦同シ)セラレタルトキハ拘留ノ日ヨリ放免ノ日迄年金ノ支給ヲ停ム

榮譽汚辱ノ所爲ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタル者ハ其ノ褫奪ノ日ヨリ年金ノ支給ヲ罷ム

輕禁錮以下ノ刑ヲ受クルモ勳章褫奪ニ至ラサル者ハ其ノ犯罪ノ許ヲ受ケ拘留セラレタル日ヨリ刑期終リタル日迄年金ノ支給ヲ停ム

第十八條 年金受領者失踪シタルトキハ其ノ踪跡分明トナリタル後失踪中ニ受取ル

ヘキ年金ヲ支給ス

年金受領者失踪中年金ノ支給ヲ停罷セラルヘキ所爲アリト認定スルトキハ年金支給主管ノ地方廳ハ年金ノ支給ヲ猶豫シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ具申スヘシ

第十九條 年金ノ支給ヲ罷メラレタル者ニハ褫奪以前ノ分ヲ支給シ其停メラレタル者ニハ其ノ間ノ分ヲ控除シテ之ヲ支給シ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス
年金ノ支給ヲ停罷セラレタル者其ノ停罷以前ノ分ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ年金支給ノ期月拘留若クハ刑期中ニ方ルトキハ次回ノ期月ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作り其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ該地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ地方廳ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス

第二十一條 年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ市町村長ノ證印アル届書ヲ年金證書ニ添ヘ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ
地方長官ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記シ署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通知スヘシ

附 錄

年 金 繼 受 願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民

故官位功勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

功何級金鷄勳章年金證何號

氏

名

何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鷄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月

戰役死歿傷痍者特別賜金取扱方第一條

三九六

ヨリ同年十二月マテ(何年七月ヨリ何年六月マテ)一年間私拜受仕度別紙年金證並
戸籍調書相添此段奉願候也

年 號 月 日

右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

氏 名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏 名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏 名 印

賞勳局總裁爵氏名殿

(遺族間年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

陸軍省令第二十號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ
基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癱疾不具
トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケ

タルモノ又ハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ扶助料及手當金ヲ受ケタルモ
ノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規程ニ依ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法
施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令
書及明治二十七年勅令第六十四號手當金給與ノ辭令書ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及
官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶
助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治廿七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ
支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額
ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持ス
ルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

戰役死歿傷痍者特別賜金取扱方自第二條至第五條

三九七

第六條 軍事公債證書ノ價格ハ凡テ額面ヲ以テ算ス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限リニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ヘシ

第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ己ニ恩給證書扶助料證書又ハ手當金等ヲ交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ調査シ恩給證書扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付セシ地方廳及手當金ノ辭令書ヲ交付セシ師團司令部又ハ屯田兵司令部ヲ經テ支給方取計フモノトス

陸軍省令第二十一號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 明治二十七八年戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ二十八年勅令第三百三十七號ニ依リ海軍省ニ於テ處理スヘキモノヲ除クノ外陸軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但シ地方受給者ニ對シテハ其地方廳ヲ經テ交付スヘシ

第二條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ陸軍省ニ願出スヘシ但シ地方廳ヲ經テ交付シタルモノニ在リテハ其廳ヲ經由シテ差出スヘシ

第三條 前條交換請求ハ受領ノ當日限リトス

海軍省令第三號 (明治二十八年十月十一日)

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ海軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ最寄鎮守府病院ニ願出ツヘシ
鎮守府病院ニ於テ前項ノ診斷書ヲ受ケタルトキハ病院長ハ之ヲ審査シ鎮守府司令長

海軍省令第二十一號自第一條至第三條海軍省令第三號

官ノ認可ヲ經テ入院ヲ許可ス其入院中ノ諸費ハ該病院ニ於テ支辨スルモノトス

海軍省令第四號

(明治二十八年十月二十四日)

第一條 海軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癱疾不具トナリタルモノ等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタルモノ又ハ明治廿七年勅令第百六十四號ニ據リ手當金ヲ受ケタルモノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規定ニ據ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治廿七年勅令第百六十四號手當金給與ノ金額ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキモノニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ

扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治廿七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五十圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ己ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添エ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限ニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼續者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ海軍省ニ願

出ツヘシ
 第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル后傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再
 ヒ請求スルモノ之ニ給スルコトナシ
 第十條 第三條、第四條ノモノニシテ己ニ恩給證書扶助料證書及辭令書又ハ手當金
 等交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ之ヲ調査シ支給方取計フモノトス

勅令第三十二號 (明治二十一年五月十二日)

陸軍管區表

| 第 第 | | 管師 | |
|---|---|---|---|
| 第 | | 管旅 | |
| 水 | 佐 | 大 | 警 |
| 戸 | 倉 | 隊 | 備 |
| 第 | 一 | 第 | 第 |
| 水 | 長 | 麻 | 麻 |
| 戸 | 野 | 布 | 布 |
| 茨城 | 長野 | 神奈川 | 東京 |
| 東茨城郡 西茨城郡 那珂郡 多賀郡 久慈郡 鹿島郡 行方郡 新治郡 筑波郡 信太郡 河内郡 北相馬郡 | 長野 | 神奈川 南多摩郡 北多摩郡 橋本郡 都筑郡 西多摩郡 | 東京 麻布區 麹町區 神田區 日本橋區 京橋區 荏原郡 南豐嶋郡 赤坂區 四谷區 小石川區 牛込區 芝區 東多摩郡 伊豆七島 橋本郡 都筑郡 西多摩郡 |
| 千葉 | 高崎 | 神奈川 | 東京 |
| 小笠原島 東京 小笠原島 | 高崎 群馬 埼玉 秩父郡 兒玉郡 賀美郡 那賀郡 大里郡 幡籠郡 榛澤郡 男衾郡 | 神奈川 横濱區 久良岐郡 鎌倉郡 三浦郡 大住郡 海老原郡 高座郡 愛甲郡 津久井郡 足柄上郡 足柄下郡 | 東京 麻布區 麹町區 神田區 日本橋區 京橋區 荏原郡 南豐嶋郡 赤坂區 四谷區 小石川區 牛込區 芝區 東多摩郡 伊豆七島 橋本郡 都筑郡 西多摩郡 |
| 水戸 | 長野 | 麻布 | 麻布 |
| 水戸 | 長野 | 麻布 | 麻布 |
| 水戸 | 長野 | 麻布 | 麻布 |

陸軍管區表

二十三年五月二十七日
 勅令第七十七號
 看

| 第 五 | | | | 第 十 | | | | |
|-----|----|-------------------------------|----|--|------------------------------------|--|--|-------------------------|
| 九 | 德 | 松 | 高 | 熊 | 宮 | 大 | 鹿 | |
| 龜 | 嶋 | 山 | 知 | 本 | 崎 | 分 | 兒 | |
| 香 | 德 | 愛 | 高 | 熊 | 鹿 | 大 | 鹿 | |
| 川 | 嶋 | 媛 | 知 | 本 | 崎 | 分 | 兒 | |
| 香川 | 德嶋 | 愛媛 | 高知 | 熊本 熊本市 飽田郡 託摩郡 宇土郡 玉名郡 上益城郡 下益城郡 八代郡 葦北郡 珠摩郡 天草郡 | 宮崎 鹿兒嶋 東嚙吹郡 南諸縣郡 南大隅郡 肝屬郡 | 大分 西國東郡 東國東郡 速見郡 大分郡 北海郡 南海郡 熊本 大野郡 直入郡 | 鹿兒嶋 鹿兒嶋市 鹿兒嶋郡 日置郡 谿山郡 阿多郡 給黎郡 梅宿郡 姪川郡 高城郡 出水郡 南伊佐郡 北伊佐郡 薩摩郡 甑嶋 菱刈郡 始良郡 桑原郡 西嚙吹郡 北大隅郡 | 大 鹿兒嶋 大嶋郡 熊毛郡 馭謨郡 |
| 小倉 | 福岡 | 遠賀郡 企救郡 田川郡 京都郡 上津郡 築城郡 | 福岡 | 三潞郡 山門郡 三池郡 | 佐賀 福岡 | 福岡 | 福岡 | |

| 第 六 | | | | 第 十 | | | |
|----------------|---|---|-----------------|---|---|--------------------------------------|---|
| 佐 | 福 | 長 | 對 | 佐 | 福 | 長 | 對 |
| 賀 | 岡 | 崎 | 嶋 | 賀 | 岡 | 崎 | 嶋 |
| 賀 | 岡 | 崎 | 嶋 | 賀 | 岡 | 崎 | 嶋 |
| 佐 | 福 | 長 | 對 | 佐 | 福 | 長 | 對 |
| 佐賀 | 福岡 | 長崎 | 對嶋 | 佐賀 福岡 | 福岡 | 長崎 | 對嶋 |
| 三潞郡 山門郡 三池郡 | 福岡市 糟屋郡 宗像郡 鞍手郡 嘉麻郡 德波郡 上座郡 下座郡 夜須郡 那珂郡 御笠郡 席田郡 恰土郡 志摩郡 早良郡 御井郡 御原郡 山本郡 久留米市 上妻郡 下妻郡 生葉郡 竹野郡 | 長崎市 西彼杵郡 東彼杵郡 北松浦郡 南高來郡 北高來郡 壹岐郡 石田郡 南松浦郡 | 對嶋長崎 上縣郡 下縣郡 | 函館區 札幌郡 (石狩國) 小樽郡 高島郡 君路郡 余市郡 古平郡 美國 札幌郡 (後志國) 千歲郡 室蘭郡 有珠郡 虻田郡 幌別郡 白老郡 勇 拂郡 (膽振國) | 函館區 龜田郡 上磯郡 松前郡 檜山郡 爾志郡 茅部郡 (渡嶋國) 久遠 郡 奧尻郡 太櫓郡 瀬棚郡 嶋牧郡 壽都郡 歌棄郡 磯谷郡 岩田郡 古宇 郡 (後志國) 山越郡 (膽振國) | 空知郡 夕張郡 樺戸郡 雨龍郡 上川郡 濱益郡 厚田郡 石狩郡 (石狩) | 增毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡 中川郡 上川郡 (天鹽國) 宗谷郡 枝幸 郡 禮文郡 利尻郡 (北見國) |

| | | | |
|----------------------------|---|----------------------------|-------------------------|
| 七 | | 十 | 七 |
| 四 | | 十 | 十 |
| 浦 | 河 | 勝 | 釧 |
| 北 | 北 | 北 | 路 |
| 海 | 海 | 海 | 北 |
| 道 | 道 | 道 | 海 |
| 沙流郡新冠郡靜内郡浦河郡様似郡幌泉郡三石郡(日高國) | | 廣尾郡當縁郡中川郡十勝郡河西郡河東郡上川郡(十勝國) | 厚岸郡釧路郡阿寒郡川上郡白糠郡足寄郡(釧路國) |

警備隊設置迄ハ東京府小笠原嶋ハ麻布大隊區ニ新瀉縣雜太羽茂加茂三郡ハ柏崎大隊區ニ島根縣周吉隱地海士知夫四郡ハ松江大隊區ニ鹿兒島縣大島熊毛馭謨三郡及沖繩縣ハ鹿兒島大隊區ニ長崎縣南松浦郡ハ長崎大隊區ニ屬ス
本表ノ外徳島縣板野郡ノ内鳴門要塞所屬地ハ第四師管ニ屬ス

徵兵令參看

●令第八條參看

●細則第二條

●滋賀縣ヨリ陸軍省へ問合 (廿五年四月十三日)

重罪ノ刑ニ處セラレタル者大赦ニ依リ復權ヲ得タルモノハ徵集スヘキ義ニ候處右ハ年齡二十七歳ト爲ル年ノ徵募事務終結後ニ於テハ勿論徵集スルニ不及義哉」トノ問合ニ對シ同局第二軍事課ヨリ同年五月三日二十歳トナル年ノ徵募事務終結後ニ係ルモノハ徵募スヘカラサル旨回答セリ

●福島縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年五月九日官報)

十六年徵兵ニテ公權剝奪ノ爲メ除役トナリ本年勅令第十一號ニ由リ赦免セラレタル者ハ徵集スヘキヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ徵集セサル儀ナリト回答セリ

●令第九條參看

●條例第十九條

●條例第二十一條

●令第十一條參看

令第八條令第九條第十一條參看

國民兵役編入方ノ件(滋賀縣)伺 (明治廿八年七月四日)

抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ現役兵及補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ編入スヘキ義ニ有之候處步兵ニシテ甲種歩兵合格者ノミヲ以テ其現役及補充兵役所要員ヲ補充シ得ヘキ場合ニ於テハ乙種歩兵合格者ハ便宜抽籤セシメス國民兵役ニ編入ノ處分ヲ爲シ可然哉

(陸軍省)指令 (明治廿八年七月八日)

伺ノ趣抽籤ヲ行ヒ其番號順序ニ依リ徵集免除名簿ヲ作ル義ト心得ヘシ

●條例第二十二條

●條例第二十七條

●細則第十一條

●細則第十二條

●令第十二條參看

●條例第五十七條

●條例第五十八條

●細則第四十六條

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年三月十三日官報)

第一項徵兵令第十條ノ滿十七歲(中畧)ハ其志願スル年ノ十二月ヲ以テ分界トスヘキヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ見解ノ通ト回答セリ

●令第十三條參看

●勅令第六十二號 (廿三年三月二十七日)

試補及判任官見習並ニ非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコトヲ得

但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

●勅令第二十二號 (二十三年三月七日)

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者ハ其教職ニ在ル地ヲ包括スル師管ノ步兵隊ニ編入ス其身體檢査ハ入營ノ際步兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ檢査ニ合格セサル者ハ國民兵役ニ編入ス
入營期日ハ毎年六月一日トシ其入營旅費ハ官給ス

●勅令第四百二十二號 (明治廿八年十月四日)

明治二十九年一月一日ヨリ沖繩縣ニ徴兵令第十三條第三項第四項ヲ施行ス

●文部省訓令第一號 (二十二年五月六日)北海道廳府縣

明治二十二年一月法律第一號徴兵令第十一條中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校ハ其市町村立ニ係ルモノハ左ノ第一項及第二項ニ該當シ私立ニ係ルモノハ左ノ各項ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟中スヘシ

一普通學校ニ在リテハ中學校ノ成規ニ準據シタルモノタルヘク農商工等ノ實業學校ニ在リテハ入學生徒ハ高等小學校卒業ノ者若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スル者ニシテ三箇年以上ノ學科程度ヲ具フルモノタルヘク其他專門學校ニ在リテハ入學生徒ハ尋常中學校卒業ノ者若クハ概テ尋常中學校ノ程度ニ據リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルヘキ事

一所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員及校舍器具其地所等ヲ具備スル事

一學校長及教員任免ノ方法一定確實ナル事

一授業料束脩等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ毎年ノ費金貳千四百圓以上ハ

全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事

一設置以來三箇年ヲ經テ相當ノ成績アルモノタルヘキ事

●陸軍省訓令甲第二號 (二十三年三月十日)師團司令部道廳府縣

徴兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スル者ノ取扱左ノ通定ム

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名ト共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス可シ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ族籍氏名及身幹尺度ヲ學校所在地廳府縣ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス

第二項 師團司令部ニ於テハ入營ス可キ人員ヲ步兵聯隊ニ配當シ入營前日迄ニ其聯隊所在地ニ召集シ身體檢査ヲ行ハシム可シ但身幹定尺ニ滿タタル者ハ召集ス

ルヲ要セス

身體檢査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第三項 身體檢査ニ合格シタル者ト合格セサル者身幹定尺ニ滿
タサル者共ヲ區分シ師團長ヨ
リ本籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ

第四項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵證書ヲ
附與ス可シ

第五項 前諸項ニ掲クルモノ、外ハ師管徵兵官ニ於テ適宜ヲ定ム可シ

●細則第三十二條

●第五師團司令部ヨリ陸軍省軍務局ヘ問合 (廿三年四月官報)

徵兵令第十一條第三項ノ滿十七歲トハ其年ノ何月ヲ以テ算スルヤトノ問合ニ對
シ同局ヨリ入營ノ月迄ニ滿十七歲トナルモノト承知アレント回答セリ

●群馬縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十三年三月二十二日官報)

本年陸軍省訓令甲第二號第一項ニ官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ

教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ云々トアリシカ右調査ノ爲メ本
人ヲ呼出ストキハ其旅費ハ官給可相成哉果シテ所見ノ如クナレハ其支給方等ハ一
般徵兵同様ト相心得可然哉トノ伺ニ對シ同省ヨリ伺之趣師範學校卒業ノ際調査
スヘキ義ト心得ヘシ但シ現ニ教職ニ在リ縣廳ニテ取調ヘ難キモノハ郡市長ヲシテ
調査セシメ郡市長ニ於テ取調難キモノハ其族籍氏名ノミ師團司令部ヘ通知スヘシ
ト指令セリ

●佐賀縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十三年四月八日官報)

毎年六月一日以後徵兵令第十一條第三項ノ資格ヲ有シタル者ハ翌年回シト爲スヘ
キヤ但六月一日前ニ右資格ヲ得ルモ夫々取扱中期日經過スルモノモ同様取計フヘ
キヤ入營旅費ハ一般徵兵旅費定則ニ依リ本縣ニテ支給スヘキヤトノ質議ニ對シ
同局ヨリ總テ意見ノ通ト回答セリ

●石川縣ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課長ヘ問合 (二十三年二月十五日)

第一條 徵兵令第十一條第三項卒業證書ニハ從前ノ師範學校中等科又ハ初等科卒

業證書モ含有スル乎」第二 本年勅令第二十二號(前略)師管ノ步兵隊ニ編入ス
其身體檢査ハ入營ノ際步兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ檢査ニ合格セサル者ハ國民兵役
ニ編入スト有之就テハ此國民兵役中滿二十六歲迄ニ其教職ヲ罷ムルモ徵兵令
第十一條第四項ニヨリ服役ノ者ニ非サルヲ以テ同條第五項ニヨリ徵集ナラサル
ヤ或ハ同條第三項ニヨリ國民兵役ニ服スル者トシ同條第五項ニヨリ徵集ナルヘ
キモノナル乎」第三 一般徵兵檢査ノ例ニヨレハ身幹測尺ハ醫師ヲシテ爲サシ
ムル義ナルモ御省訓令甲第二號ニハ其明文モ無之ニ付尺度調査取扱ハ醫師ニア
ラサルモ差支無之乎」トノ問合ニ對シ同年四月十日第一項第三項意見ノ通第二
項前段意見ノ通ト回答セリ

●岡山縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十三年四月廿六日官報)

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者入營旅費ハ官給可相
成モ身幹測尺ノ爲メ縣廳或ハ適宜ノ場所ニ呼出ストキ及身體受檢ノ爲メ召集地ニ
出頭スル旅費ハ合格不合格ニ拘ハラス一般徵兵同様官給可相成哉」トノ伺出ニ對

シ内務陸軍兩省ヨリ身幹測尺ハ旅費ヲ要セサル便宜ノ場所ニ於テ取調ヘ若シ旅費
ヲ要セサレハ取調ヘ難キ者ハ其族籍氏名ノミ師團司令部ヘ通知スヘシ又身體檢査
ハ入營ノ際行フヲ以テ別ニ檢査ノタメ召集セス尤モ入營ノ際檢査不合格トナリタ
ル者ノ歸郷旅費ハ官給スト指令セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課長ヘ問合 (二十四年八月四日)

六週間陸軍現役兵入營及歸郷旅費ハ一般徵兵同様官給可相成ニ付テハ其入營旅費
ハ地方徵兵費ヨリ支出シ歸郷旅費(身體檢査不合格ニテ入營)ハ其出頭シタル該隊
ヨリ支給スルヲ至當ト認候處頃日本年六週間現役兵ニシテ身體檢査不合格歸郷セ
シ者ヨリ右歸郷旅費請求候ニ付第三師團司令部ヘ及照會候處一旦入營シタル以上
ハ該隊ヨリ支給可致候得共前記ノ如キ入營セサルモノハ旅費ハ府縣ノ支拂ニ可属
旨回答越候果シテ府縣ノ支拂ニ可属モノトスレハ該當者ニ在リテハ甚タ困難ノ義
ニモ有之ノミナラス歸郷旅費ノ性質ヨリ考フルモ不當ニ有之候様存候右ハ孰レニ
於テ支拂フヘキモノナルヤ」トノ問合ニ對シ同年十二月廿八日同課長ヨリ右歸郷

旅費ヲ軍隊ニ於テ支給スヘキ者ハ現役ニ服シタル者ニ限ル義ニシテ未入營ノ者ニハ支給難相成筋ニ有之候條第三師團司令部回答ノ通御承知相成度云々ト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局長ヘ照會 (二十四年六月四日)

一 徵兵令第十一條第三項ニ當リ服役スル者ニシテ身幹定尺未滿ノ廉ヲ以テ國民兵ニ編入シタル者滿二十六歲迄ニ其教職ヲ止ムルモ常例ノ兵役ニ服スル義務ナキモノナルヤ或ハ一般徵兵處分トモ異ナルニヨリ同條第四項第五項同様心得可然哉」二 同令第三十七條ニ依リ徵集猶豫ノ者ニシテ其教職ヲ止メタルトキ届出ノ明文有之候處再ヒ教職ニ就キタルトキ届出ノ明文ナシ此場合ニハ其卒業證書及辭令書ノ寫ヲ以テ本籍市町村長ニ届出シテ町村長ハ之ヲ郡長ニ郡市長ハ之ヲ縣廳ニ申報スヘキヤ」三 前項ノ者ニシテ縣下在職ノ片ハ其郡市長ヲシテ身幹測尺セシメ候得共若シ他府縣下ニ在職スルトキハ本籍ノ郡市長ヨリ在職地ノ郡市長ヘ照會シ調査セシムヘキヤ」又府縣廳ヨリ身幹尺度等ヲ通知スヘキ師團ハ本籍地ヲ包括スル師團司令部ナルヤ」トノ問合ニ對シ同局第二軍事課長ヨリ

同月廿三日附ヲ以テ第一項前段見解之通り第二項再ヒ教職ニ就キタルモノハ二十三年陸軍省令甲第二號第一項ニ依リ調査スヘキモノニ付其届出ヲ要セス第三項他府縣下ニ在職ノ者ハ其在職ノ府縣ニ於テ調査スヘキモノトス又後段ハ本人在職地ヲ包括スル師團司令部トスト回答セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局長ヘ問合 (二十二年三月十三日官報)

第一項徵兵令(前畧)第十一條ノ滿十七歲二十六歲ハ其志願スル年ノ十二月ヲ以テ分界トスヘキヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ第一項滿十七歲ハ見解ノ通滿二十六歲ハ志願スル年ノ一月ヨリ十二月迄ニ其年齡ニ當ルヲ云フト回答セリ

●秋田縣ヨリ陸軍省總務局長ヘ問合 (二十三年二月十四日官報)

昨年十一月法律第二十九號ヲ以テ徵兵令第十一條第一項ノ割註改正セラレタル處官立農林學校各部ノ別科生ハ右割註ノ別科トアルニ該當シ則チ同令第二十一條ノ徵集ヲ猶豫スルノ限リニ之ナキ義ト心得可然哉」トノ問合ニ對シ同局長ヨリ右ハ問合ノ通ト回答セリ

●德島縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十三年三月十二日官報)

舊徴兵令第十八條第二項ニ依リ徴集猶豫ニ屬シタル者其事故止ミ本年徴集ニ應スヘキ者再ヒ官立公立小學校教員ト爲ル者ハ徴兵令第十一條第三項ニ依リ六週間現役ニ服セシムルモノナルヤ」前項果シテ令第十一條第三項ニ依ルモノトセハ其年徴兵抽籤現役當籤ノ後入營前再ヒ教員ト爲ル者ノ如キモ尙ホ令第十一條第三項ニ依ラシムルモノナルヤ」ト問合セシニ同局ヨリ第一項意見ノ通第二項現役當籤後ニ係ル者ハ令第十一條第三項ニ依ルノ限ニアラスト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年十二月十三日)

徴兵令第三十七條ニ依リ徴集延期ノ者ニシテ其事故七箇年間ニ止ミタル者其年入營期迄ニ再ヒ官立公立小學校ノ教職ニ就クトキハ同令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキヤ或ハ同令第三十七條ニ依リ徴集延期ニ屬シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルノ外第三項ニ依リ服役セシムルノ限リニアラサルヤ」同令第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歲迄ニ其教職ヲ止ム

ルモ其入營期迄ニ官立公立小學校ノ教職ニ就クトキハ再ヒ第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキヤ或ハ一旦六週間陸軍現役ニ服シタル者ハ第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スルノ外再ヒ第三項ニ依リ服役セシムル限リニアラサルヤ」トノ問合ニ對シ二十三年四月一日同局ヨリ第一項ハ前段意見ノ通第二項ハ一般徴兵抽籤ノ日ヲ以テ分界トシ其以前再ヒ教職ニ就キタル者ハ更ニ六週間現役兵又ハ尋常現役兵トシテ徴集スルニ及ハス尤至ク現役ヲ終ヘサル者ハ更ニ六週間現役兵トシテ徴集スル旨回答セリ

●佐賀縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十三年四月十四日官報)

公立小學校長ハ直接生徒ニ教授ヲ爲サ、ルモ訓導其他教員ヲ指揮教務ヲモ整理スルモノニ付教職ト稱スヘキヤ果シテ然ラハ徴兵令第十一條第三項ニ依リ取扱フヘキヤ」トノ問合ニ對シ意見ノ通ト回答セリ

●愛知縣ヨリ陸軍省へ伺 (廿三年十月二日)

一 尋常師範學校ヲ卒業シタル者ニシテ徴兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍

現役ヲ終ヘ教職ニ在ル者尙ホ高等學科修業ノ爲メ知事ノ推撰ヲ以テ高等師範學校又ハ東京工業學校ヘ入校セシメタル者ハ卒業後地方教職ニ從事セシムルノ目的ニ出ルト雖モ其入校ノタメ一時教職ヲ罷ムルニ付テハ令第四十六條第二項ノ届出及在校中ハ同第廿一條第一項ノ猶豫願出ヲ要スヘクト存候然レモ卒業後再ヒ官立公立小學校ノ教職ニ從事スルニ於テハ更ニ現役ニ服スルニ及ハス國民兵役ニ編入可相成哉」二 同令第十一條第四項服役中ノ者ニシテ學校ノ都合又ハ自己止ムヲ得サル事故ニ依リ一時教職ヲ罷メ即チ同條第五項ニ當ル者入營前ニ於テ再ヒ其教職ニ從事スルトキハ徵募準備及徵募事務終了前後等ノ時日ニ拘ハラズ前項同様國民兵役ニ編入可相成候哉」ト伺出シニ同月二日兩項共通之通但毎年尋常徵兵抽籤ノ日ヲ以テ分界シ其後ニ於テ教職ト爲ルモノハ此限ニアラスト指令セリ

●長崎縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十四年三月十日官報)

中學校ノ學科程度ト同等以上ト文部大臣ニ於テ認メラレタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學等ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シタル者ハ無試験ヲ以テ一年志願兵タルコトヲ得ヘキ義ナリ然ルニ該校ニ於テ未タ同等以上ト認メラレサル以前卒業セシ者一年志願兵ヲ願フトキハ試験ヲ受ケシムヘキモノナルヘケレモ其學科程度ニ至リ認定前後毫モ異ナルコトナキモノハ試験ヲ要セス採用相成ルヘキ義ト心得可然哉」トノ伺ニ對シ同省ヨリ試験ヲ要スル義ト心得ヘシ但其學校ニシテ舊徵兵令第十一條第十二條ニ當ルモノナルトキハ伺ノ通ト指令セリ

●兵庫縣ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課長ヘ問合 (二十五年二月三日)

本縣尋常中學校ヲ卒業シ現今帝國理科大學簡易講習所ニ在校ノモノ有之候處右講習所ノ義ハ徵兵令第十一條第一項ノ割註ニ該當シ則チ同令第二十一條ニ依リ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ無之義ト心得可然哉」トノ問合ニ對シ同月十五日同課長ヨリ意見之通ト回答セリ

●本條第一項文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル官立府縣立及私立學校名ハ左ノ如シ

京都府府立京都醫學校
 大坂府府立大坂醫學校
 愛知縣縣立愛知醫學校
 私立獨逸協會學校
 私立濟々蠻
 私立尋常大村中學校
 京都府府立京都商業學校
 宮城縣々立宮城農學校
 兵庫縣々立神戸商業學校
 大坂市私立大坂商業學校
 大坂府々立農學校
 愛知縣名古屋市々立名古屋商業學校
 猶興館

東京府下神田區西小川町一丁目
 熊本縣下熊本區高田原相撲町
 長崎縣下東彼杵郡大村

長崎縣北松浦郡平戸村

石川縣々立石川縣工業學校
 京都府京都市々立京都府美術學校
 長崎縣長崎市々立長崎商業學校
 新潟縣々立新潟農學校
 石川縣々立石川縣農學校
 滋賀縣々立滋賀縣商業學校
 私立成城學校(幼年學科ヲ除ク)
 北海道廳々立函館商業學校
 鳥取縣々立農學校
 山口縣々立山口農學校
 山口縣赤間關市々立赤間關商業學校
 神奈川縣橫濱市町立橫濱商業學校
 石川縣金澤市私立大谷尋常中學校

東京市牛込區加賀町二丁目

秋田縣々立秋田尋常中學校農業專修科

栃木縣々立栃木縣尋常中學校農業專修科

東京府下私立水産傳習所

新潟縣下長岡、中頸城尋常中學校

大分縣々立大分縣農學校

山形縣々立山形尋常中學校農業專修科

巖手縣々立巖手獸醫學校

埼玉縣私立埼玉英和學校本科

●第六師團參謀長ヨリ軍務局第二軍事課へ問合 (二十四年八月官報)

京都府書學校ノ義ハ從來特別認可學校ニ有之候處本年四月二十日ノ官報ニ美術學校ト改稱シ其組織ヲ變更シタル段掲載有之然ルニ認可學校タルハ文部大臣ニ於テ認メラルヘキモノニシテ該官報ノ記事ハ京都府ヨリノ報告ニ過キサレハ假令名稱ヲ改メ組織ヲ釐革スルモ依然認可學校タルノ資格ヲ有スルモノトハ被存候得共或

二十二年
十月改稱
九月文部
省告示第
十六號參
看

ハ名稱ヲ改メタルノミナラス其組織ヲ變更シタルモノニ付文部大臣ノ告示ヲ待タス自然認可學校タルノ資格ヲ失ヒタルモノト可心得哉」トノ問合ニ對シ校名ヲ改メ組織ヲ變更セシモ中學校ノ學科程度ト同等以上ノ範圍内ニ於テ其教則ヲ改正シタル義ニテ二十三年五月文部大臣ノ認定ハ其儘引續キ消滅ニ属セサル旨回答セリ

●又文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ教授スル學校ハ左ノ如シ

東京法學院

東京府下神田區錦町二丁目

和佛法律學校

同府下同區小川町

私立東京專門學校法律學科

同府下南豐島郡下戸塚村

私立明治法律學校

同府下神田區南甲賀町

私立專修學校

同府下同區今川小路二丁目

●静岡縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年六月十七日)

徵兵令第十一條中中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メラレタル學校ハ文部省ヨリ其時々告示相成候處同條中明文アル法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ義

ハ別段告示無之明治廿一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ學則ヲ認可セラレタル告示ニ依リ直ニ本令第十一條ニ該當ノ學校ト心得可然哉」トノ問合ニ對シ同月二十日問合ノ通下回答セリ

●文部省ヨリ陸軍省へ照會 (二十五年七月二十七日)

官立府縣立師範學校卒業者ハ一定ノ年限間國家教育ノ職務ニ服事セシムヘキ者ナレハ之ヲ普通ノ兵役ニ服セシムルトキハ長ク其職務ヲ曠廢セシムルコト、ナリ學政上ニ支障尠カラサルカ爲該卒業者ノ兵役義務ニ就テハ明治二十二年^{七月}法律第一號徵兵令第十一條第三項同第四項ノ特典ヲ設ケラレ居候處本年^{七月}文部省令第八號ヲ以テ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ改正シ其第四條ニ於テ土地ノ情況ニ依リ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置クヲ得シメ又同省令第十五號ヲ以テ尋常師範學校簡易科規程ヲ設ケタリ抑モ此簡易科ヲ設ケタル理由ハ目下小學校教員缺乏ノ折柄尋常師範學校ニ於テ每年卒業セシムル者ノミニテハ容易ニ其需用ニ應スルコト能ハサルハ一時便宜ノ途ニ依リ尋常小學校即チ各市町村ニ於テ必ス設置セサル可ラサル小

學校ノ教員ヲ養成シ以テ國家教育ノ普及ヲ計ルハ學政上之ヲ以テ今日ノ急務トスルニ在リ故ニ簡易科卒業者モ亦國家教育ノ職務ニ服事スルコト從前ノ師範學校卒業者ト毫モ徑庭アルコトナシ唯其速成ヲ期シテ修業年限ヲ短縮シ隨テ服務年限ヲモ幾分カ短縮シタルアルノミ又簡易科ノ課程ニモ兵式體操ヲ加ヘ其程度ハ尋常師範學校ニ於テ他ノ生徒ニ課スルモノト異ナル所ナシ唯修業年限ノ短キカ爲ニ熟練ニ於テ多少ノ差アルヲ免カレサルノミ之ヲ要スルニ簡易科モ亦尋常師範學校ノ一部ニシテ其卒業者ハ即チ國家教育ノ職務ニ服事セシムル者ナレハ該卒業者モ亦前記徵兵令ノ特典ニ與カラシムヘキハ學政上必要ニ候條貴省御主管ノ徵兵事務ニ於テモ前陳ノ理由ニ由リ尋常師範學校簡易科卒業者ハ即チ府縣立師範學校卒業者タルコトヲ認メテ御取扱相成様致度候依テ別記參考書相添此段及御照會候也」トノ照會ニ對シ陸軍省ヨリ今般學政上ノ都合ヲ以テ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置カレ候處右簡易科卒業ノ者モ徵兵令第十一條第三項第四項ニ依リ取扱候様御照會ノ趣承知致候」ト回答セリ

●文部次官ヨリ陸軍次官へ照會 (二十五年十一月十七日)

高等中學校醫學部生徒ノ徵兵令ニ關スル在學證明書ノ儀ハ先年御照會ノ上該部主事ヨリ交付スル事ニ致居候處尙陸軍一年志願兵條例第十條ノ證明書モ右同様醫學部生徒へハ該部主事ヨリ交付スル事ニ爲致度トノ照會ニ對シ陸軍次官ヨリ御意見ノ通御取計相成差支無之ト回答セリ

●令第十七條參看

第一補充兵平時召集期日ノ件(福井縣)問合 (明治廿八年十一月五日)

徵兵令第十七條ニ依リ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ召集セラルヘキ第一補充兵ノ召集期日ハ現役兵入營期日ト同時召集可相成義ニ候哉一應及御問合候條何分ノ御回報有之度

(陸軍省軍務局第二軍事課)回答 (明治廿八年十一月九日)

追テ被相定候義ト御承知相成度

●令第十九條參看

●條例第三十六條

●條例第三十七條

●條例第三十八條

●細則第二十四條

●細則第二十五條

●陸軍省令第三號 (二十五年三月十八日)

徵兵検査規則

第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノ、體格ヲ検査シ其適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩癧
- 六 白痴
- 七 癲狂
- 八 夜盲

- 九 盲
- 十 耳殼若クハ鼻ノ全欠スルモノ
- 十一 聾
- 十二 啞
- 十三 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
- 十四 食道狹窄
- 十五 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十六 歇兒尼亞
- 十七 關節畸形
- 十八 習癖脫臼
- 十九 支肢短縮、彎曲
- 二十 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
- 二十一 拇指若クハ指示若クハ二指ヲ失シタルモノ
- 二十二 翻足
- 二十三 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ

前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカラサルモノハ不合格トス

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 甲種身長五尺以上ニシテ身體強健ナルモノ
- 二 乙種身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ
- 三 丙種身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸以上ニシテ丁種戊種ニ當ラサルモノ
- 四 丁種第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ

第四條 第三條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ徵スヘキモノ丙種ハ

國民兵役ニ置クモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス

●令第二十條參看

●條例第二十九條

●條例第三十一條

●條例第三十條

●條例第三十六條

令第二十一條參看令第二十二條參看

- 條例第三十八條
- 細則第十條
- 細則第十三條
- 細則第三十條
- 令第二十一條參看
- 條例第二十八條
- 條例第二十九條
- 條例第三十條
- 細則第十條
- 細則第十三條
- 細則第三十條
- 令第二十二條參看
- 條例第十一條
- 條例第二十九條
- 條例第三十一條
- 條例第三十八條
- 細則第十條
- 細則第十三條
- 條例第二十八條
- 條例第三十條
- 條例第三十一條
- 條例第三十六條
- 條例第四十三條

- 條例第四十四條
- 條例第四十六條
- 條例第五十九條
- 細則第十條
- 細則第十五條
- 細則第三十條
- 條例第四十五條
- 條例第五十三條
- 條例第六十六條
- 細則第十三條
- 細則第二十四條

● 德島縣ヨリ陸軍省軍務局へ問合 (二十三年十二月廿日官報)

爰ニ甲家ノ子弟乙家ノ養子ト爲リ乙家ニ於テ徵兵令第二十條ノ事故ニ依リ徵集延期既ニ二箇年ニ至リ其後乙家ヲ離縁甲家へ復籍シ尙又丙家ノ養子トナル丙家モ亦該人ヲ要スルニアラサレハ自活シ能ハサルニ付延期願出許可ヲ與ヘ即チ乙丙兩家ニ於テ三ヶ年ヲ延期ス右徵集延期ハ其家族ノ生活ヲ得セシメンタメニシテ適齡者一身ノ爲メニ許可ヲ與ヘタルモノニ之ナク即チ其家ニ依リテ事故ヲ生シタル義ニ付一旦其家ヲ去リ轉シテ他家ニ至リタル節ハ前後年期ノ通算ヲ爲スノ限ニ之ナク

令第二十二條參看

更ニ丙家ニ於テ初テ延期許可ヲ得タル後三箇年ヲ過キサレハ國民兵ヘ編入相成ラサル精神ナルヤ」トノ問合ニ對シ同局第二軍事課ヨリ右ハ前後ノ延期年期ヲ通算スル義ナリト回答セリ

●福井縣ヨリ陸軍省軍務局ヘ照會 (二十四年六月一日)

徵兵令第二十條ニ依リ家族自活シ能ハサル確證アルヲ以テ徵集ヲ延期スヘキモノ身體檢査ノ成績ニヨリ同令第十八條第二ニ該當シ其年徵集延期ノ事故併有スルモノハ同令第二十條ニ依リ徵集延期ノ處分ヲナシ可然哉」トノ問合ニ對シ同月五日同局第二軍事課長ヨリ意見ノ通ト回答セリ

●静岡縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年五月三十一日)

第三項令第二十一條ニ當ル者ハ身體檢査ヲ行ハサルハ細則第十六條ニ明文有之候得共令第二十條ニ當ル者ハ何等明文無之ヲ以テ檢査ヲ要スルハ勿論ニ有之就テハ檢査ノ上令第十八條ニ相當シ令第二十條ノ事故ト併有シタルトキハ令第十八條ニ依リ延期スヘキ義ナルヤ」トノ問合ニ對シ六月八日令第二十條ニ依リ延期スヘキ

モノトスト回答セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年三月十三日官報)

第二項令第二十條ノ三箇年(中略)ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ令第二十條ノ三箇年ハ同條ノ事故ニ由リ徵集ヲ延期シタル年ヨリ起算スト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年四月二十四日)

第二項郡市徵兵參事員ハ其徵募區ノ徵兵署開設中職務ニ從事スルモノ、如ク被存候處徵兵署閉鎖後抽籤前ニ於テ徵兵令第二十條ニ當ルヘキ者アルトキハ郡市徵兵參事員ノ意見ヲ徵セス大隊區徵兵官ニ於テ審議處分ヲ爲ス義ト心得可然哉」第三項徵兵令第二十條ニ當ル出願者ハ其自活シ能ハサル狀況ヲ願書ニ詳記シ確證書類ヲ添付セシメ又市町村長ニ於テ實地ニ就キ篤ト調査セシムルノ手續相設置候ニ付郡市徵兵參事員ハ其書類及平素見聞スル處ノ事實ヲ斟酌審議ヲ遂クヘキ義ト存候得共万一實況ヲ調査セサレハ意見難決旨陳述スル場合ニアリテ該員自ラ實地ニ就

キ調査スルヲ得ヘキヤ果シテ然ラハ其手當及旅費金等ハ官給可相成哉」トノ問合ニ對シ二十二年五月二十五日同局ヨリ第二項旅管徵兵署ニ於テ府縣徵兵參事員ノ審議ニ附スルモノトス第三項意見ノ通ト回答セリ

●静岡縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年六月二十一日)

第一項徵兵令第二十條相當ノ者ハ同事務條例第六十二條ニ依リ其年三月一日迄ニ大隊區徵兵官ニ願出スヘキハ勿論ニ候得共假令ハ些少ノ財産モナク他ノ弊家ニ借宅住居シテ家族ハ老幼ニシテ本人ヲ要セサレハ其日ノ生活ニ困苦シ情實ニ於テ止ムヲ得サルモノト雖モ右期日經過スルニ於テハ願意受理難相成筋ニ候哉又ハ本人居住地徵募區ノ檢査前事務上ニ於テ聊カ差支無之片ハ受理シ不苦哉」第二項前條出願期日ヲ經過スルト雖モ本人他へ出稼中或ハ疾病ニ罹リ自然遲延セシモノ、如キハ實際止ムヲ得サルモノニ付檢査前事務上差支無之トキハ願書受理シ不苦哉」トノ問合ニ對シ同月二十六日同局ヨリ事務上差支ナキ時ハ受理シ苦シカラスト回答セリ

●第五師團ヨリ陸軍省へ申請 (二十五年十一月二十日)

徵兵令第二十條ニ因リ徵集延期既ニ三年ニ至リ其後事故止ミ徵集身分ト爲リ新令ニ合格ノ處抽籤後入營前再ヒ本條相當ノ事故ヲ生シタルヲ以テ徵兵事務條例第五十三條ニ依リ徵集ヲ延期シタル者有之候處右ハ前後ヲ通算スルトキハ三箇年ヲ過クル者ニ付翌年徵募事務執行ノ砌國民兵編入ノ處分ヲ爲シ可然哉或ハ事故再發ノ者ニ付更ニ三箇年ヲ過キ仍ホ事故止マサル者ニ非ラサレハ其取扱難致儀ニ候ヤ是迄類例モ無之候間何分ノ御指揮相成度トノ申請ニ對シ後段申請ノ通ト指令セリ

●熊本縣ヨリ陸軍省第二軍事課へ問合 (二十五年十二月二十日)

徵兵令第二十條徵集延期ノ年期通算ノ義ニ付去ル明治二十三年十二月二十日 貴課ヨリ徳島縣へ御回答ノ趣有之候處本月 八日 官報 第五師團長ノ申請ニ對スル陸軍大臣ノ御指令ハ前後ノ年期ヲ通算セサル事ニ相成居右ハ一端現役ニ當籤セシ後新ニ事故ノ生シタルモノト否ラサルモノトニ依リ差違アル義ト了解致可然哉何分ノ御回示有之度」トノ問合ニ對シ第二軍事課ヨリ事故ノ繼續ト否トニ由リ區別アル旨趣ニ

有之候尤徳島縣照會ノ儀モ乙家離退ノ時一旦事故止ミタル者ニ付丙家ニ於テ延期トナリタル初年ヨリ更ニ延期年限ヲ起算シ可然旨其後同縣へ及通知候條右様御承知有之度ト回答セリ

●令第二十三條參看

●陸軍省令第一號 (二十八年一月二十四日)

明治二十六年陸軍省令第一號ヲ左ノ通改正ス

一 徴兵令第二十一條第二項ニ依リ徴集猶豫ヲ出願セントスル者ニシテ其願書ニ公使又ハ領事ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ差出シ難キ事情アルモノハ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ以テ公使又ハ領事ノ證明書ニ換ヘ同日迄ニ差出シ置キ退テ該證明書ヲ差出スコトヲ得

二 公使及領事ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其徴集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

●條例第二十八條

●條例第二十九條

●條例第三十條

●條例第三十一條

●條例第五十九條

●條例第六十條

●細則第十條

●細則第十三條

●細則第十六條

●細則第二十三條

●細則第二十條

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年二月五日官報)

法律第一號ヲ以テ改正徴兵令公布相成タルニ就テハ本年一月ヨリ同十二月迄ニ滿二十歳トナル者ニシテ本年三月十五日適齡届出以前縣立尋常師範學校生徒トナリタルモノハ同令第二十一條ニ據リ徴集猶豫相成ルヘキヤ將タ適齡届出後ト雖モ抽籤以前入校ノ者ハ徴集猶豫相成ルヘキヤ右ハ生徒募集ニ際シ差掛リタル義アルニ付電報ヲ以テ回答アリ度旨問合セシニ師範學校生徒猶豫ノ件ハ総テ意見ノ通ト回答セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年三月十三日官報)

第三項令第二十一條ノ滿二十六歲(中略)ハ生月ヨリ起算スヘキヤ將タ適齡ノ十二月一日ヨリ起算スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算シ滿二十六歲(中略)トナル年ノ徵募事務終結ヲ以テ徵集猶豫ノ分界トスト回答セリ

●大坂府ヨリ陸軍省副官へ問合 (二十二年三月十二日官報)

第一項第二十一條ノ但書ハ各其本文年齡滿二十六歲若クハ六箇年ヲ過クル者ニモ適用スヘキ乎第一項見解ノ通但第二十一條第一項ノ事故止マサル者ハ滿二十六歲トナル年ニ於テ徵集スルヲ以テ同項但書ハ二十六歲以前ノ者ニ適用ス

●千葉縣ヨリ陸軍次官へ問合 (二十二年五月廿八日官報)

農林學校各部別科生ハ徵兵令第二十一條ノ徵集猶豫スル限ニ之ナキヤノ旨本年一月十四日付秋田縣ヨリ貴省元總務局へノ照會ニ對シ同二月十三日付問合ノ通トノ回答當時ノ官報ニ掲載相成リタルカ本月七日付農商務省告示第五號ヲ以テ同學校々則中改正相成リ同校ニ甲乙二科及豫備科ヲ置キタルニ付キテハ甲乙二科ノ生徒ハ徵兵令第二十一條ニ據リ徵集猶豫ニ屬シ其豫備科生徒ハ該條ニ據ル者ニ無之哉

トノ問合ニ對シ同官ヨリ右ハ豫科トモ總テ徵兵令第二十一條ニ依ルヘキ義ナリト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局へ問合 (二十五年三月三日)

第一項徵兵令第二十一條中其事故滿二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキ之ヲ徵集ストハ其中ニハ滿廿六歲ヲ過クルモ徵募事務終結時限迄ニ滿廿六歲ニ達セサルモノハ其年徵集スルノ限ニアラサルヤトノ問合ニ對シ同年四月五日同局ヨリ事務終結後二十六歲トナル者モ其年徵集スヘキモノトスト回答セリ

●滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺 (二十四年十月三日)

何某明治廿三年徵兵適齡ノ處失踪シ身體檢査ニ參會セサリシヲ以テ徵兵令第三十一條ノ犯罪者ト認メ當時告發及ヒタルニ缺席ノ儘同條ニ依リ重禁錮廿二日罰金貳圓貳拾五錢ニ處セラレ候然ルニ本人ハ現ニ北米合衆國ボストン府ニ居住ノ義發見セシヲ以テ直ニ刑ノ執行ヲ求メ置候處今般本人ヨリ徵兵令第二十一條第二項ニ依リ徵集猶豫出願致度旨申出候趣ヲ以テ之レカ許否郡長ヨリ伺出候右ハ其刑ニ服セ

シ上ハ徵兵令第廿八條ニ當ル者ナリト雖モ許可致シ差支ナキヤ」トノ伺ニ對シ同月七日伺ノ通ト指令セリ

●福島縣内務部ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課へ照會 (二十八年一月十六日)

本年徵兵適齡者ニシテ軍隊附屬員或ハ人夫トナリ從軍シ目下清韓兩國ニ在ルモノハ徵兵檢査ノ際喚戻シ徵集ニ應セシムヘキ哉又ハ從軍中猶豫ノ取扱ヲ爲シ可然哉否至急御回答有之度」トノ照會ニ對シ第二軍事課ヨリ戰地出張中ナルモト確實ナルモノハ身分氏名等ヲ具シ處分方當省へ御伺出相成可然ト回答セリ

●令第二十四條參看

●閣令第六號 (二十二年二月二十七日)

各官廳明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

●陸軍省令第二十九號 (廿三年十月十五日)

陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ北海道徵兵令未行地ニ轉籍スル者ハ當分勤務演習及

簡閱點呼ニ召集セス

●第五師團參謀長ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課長へ問合 (二十四年二月官報)

豫備後備役兵ニシテ徵兵令未行地へ寄留スル者ハ同地在籍者同様勤務演習及簡閱點呼施行セラレサル義ト被存候得共若シ之ニ反シ施行可相成モノトセハ何レノ地ニ於テ勤務演習簡閱點呼ヲ施行可致哉」トノ問合ニ對シ右ハ豫備後備下士兵卒服役條例第七條ニ依リ難キモノニ付自然本籍ニ於テ施行スル外途無之尤該寄留者ニシテ演習召集及簡閱點呼ニ應シ難キ止ムヲ得サル事故アルモノハ同條例第六條ニ依リ可取扱旨回答セリ

●鹿兒島縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年四月六日官報)

舊徵兵令第二十條ニ當ル官吏ハ更ニ去ル二月閣令第六號ノ手續ヲ爲スニ非ラサレハ召集セラル、ヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ問合ノ通ト回答セリ

●令第二十五條參看

●陸軍省令第十九號 (廿二年六月六日)

令第二十五條參看

陸軍生徒陸地測量部修技 所生徒ヲ除クハ總テ陸軍常備兵籍ニ編入ス

●陸軍省訓令甲第七號 (二十二年十一月二十二日)北海道廳府縣沖繩縣ヲ除ク

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戶主ト家族ヲ問ハス戶主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在テハ本籍戶主ヨリ徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セシム可シ

●條例第二十三條 ●條例第六十九條

●細則第一條 ●細則第二條

●細則第二十七條 ●細則第二十八條

●三重縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年二月十八日)

第一項令第二十五條ノ屆書式ハ舊條例ノ書式ニ依ルヤトノ問合ニ對シ二十二年二月廿七日同局ヨリ第一項ハ其縣ニテ適宜定ムル筈ト回答セリ

●大坂府ヨリ陸軍省副官ヘ問合 (二十二年三月十二日官報)

第二項第二十五條但書現役中ニハ陸海軍諸生徒モ含有スルヤトノ問合ニ對シ意

見ノ通但兵籍ニ編入セサル者ハ此限ニアラスト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省ヘ問合 (二十四年三月廿七日)

徵兵適齡ノ時教導團生徒ナルヲ以テ令第二十五條但書ノ處分ヲ受ケ後チ卒業ノ目的ナク退團セラレタル者徵否ノ明文ナシ右ハ体格檢査ノ上抽籤法ヲ以テ徵集スヘキヤトノ問合ニ對シ同月廿八日意見ノ通ト回答セリ

●静岡縣ヨリ陸軍次官ヘ問合 (二十四年一月廿一日)

明治四年一月出生ノ者ハ昨二十三年中ニ於テ滿二十歳トナルヲ以テ徵兵令第廿五條ニ據リ成規ノ通戶主ヨリ本籍ノ村長ヘ届出タルモ村長ニ於テハ同年徵集ニ應スヘキ者ハ明治三年中ニ出生ノ者ニ限ル義ト誤認シタルヨリ其屆書ヲ却下致シ候處戶主并ニ適齡者ニ於テモ何ノ意ナク却下サレタル儘擱キ候然ルニ本年徵兵適齡者調査ニ際シ右誤解シタルノ心付候段現今申出候者有之右ハ粗漏ノ調査ヲ爲シタル村長ヲ相當處罰シタル上ハ本人ハ尋常異動徵集者同様徵集致シ可然哉又ハ村長處罰ハ勿論戶主ハ令第三十條ニ照シ處分スヘキ義ニ候ヤトノ問合ニ對シ同次官ヨ

リ同年二月四日前段意見ノ通ト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年三月十一日官報)

壯丁名簿用紙ハ戸長役場費ヨリ支辨スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ意見ノ通
リト回答セリ

●海軍省軍務局長ヨリ府縣知事へ通牒 (二十二年三月六日)

本年一月徴兵令改正相成候處海軍生徒ハ常備兵籍ニ編入サレタルモノニ有之又東
京商船學校函館商船學校生徒ハ卒業之上ハ海軍豫備員ニ充ツヘキ者ニ付海軍生徒
ニ準セラレ候條爲御心得此旨及御通牒候也

●兵庫縣ヨリ海軍省へ伺 (二十二年四月十六日官報)

勅令第二十五號ヲ以テ海軍卒職名等級表中工夫ノ部削除相成リタル處右發令以前
該工夫ノ職ニアリシ者ハ罷名稱(常備年期ノ七箇年以内ノ者)トシ更ニ徴集スルノ
限ニ之ナク滿期免役者同様シ義ト相心得可然哉トノ問合ニ對シ同省ヨリ舊工夫
ハ徴兵令ニ依リ徴集スル義ト心得ヘシト指令セリ

廿四年十
二月五日
海軍省第
一局ノ通
知ニヨリ
工夫ヲ除
ク

●神奈川縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年十一月廿九日官報)

本月廿二日御省訓令甲第七號ヲ以テ附籍者ニアリテハ本籍ノ徴募區ニ於テ徴集ニ
應セシムヘキ筈ナレトモ元來分離附籍者戸籍上ノ關係ハ寄留者同様ノ取扱ニ屬ス
ルモノニ付徴兵令第二十六條ニ準シ現住地ノ徴募區ニ於テ徴集ニ應セシムルコトヲ
得ルハ勿論ノ義ト考フレトモ果シテ然ルモノナルヤトノ照會ニ對シ同局ヨリ右
ハ徴兵令第二十六條ニ依リ出願スル者ハ現住地ノ徴募區ニ於テ徴集ニ應セシムル
ヲ得ル義ナリト回答セリ

●千葉縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年十二月廿六日官報)

家族ノ附籍者ニシテ本年以前徴兵適齡ノ節事故アリ假決ノ處分ヲ爲シタルモノハ
其儘附籍地ニ於テ徴集ニ應セシメ本年御省訓令甲第七號ノ附籍者取扱方ハ自今徴
兵適齡ノ届出ヲ爲スヘキモノヨリ施行スル義ト心得可然哉トノ照會ニ對シ同局
ヨリ意見ノ通ト回答セリ

●令第二十六條參看

●條例第六十一條

●細則第四十五條

○令第二十七條參看

●陸軍省第七號 (二十二年三月廿五日)

一 警備隊兵卒ノ入營期限ハ左ノ如シ

第一次 十二月一日

砲兵助卒ハ二月一日

第二次 六月一日

砲兵助卒ハ八月一日

一 疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ノ補欠員ハ第一次第二次共其月ノ十日迄ニ入營セシム

一 前項ノ事故ニ由リ第一次ニ入營シ難キ者ハ第二次ニ第二次ニ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ新兵同時ニ入營セシム

一 前諸項ニ掲クルモノ、外入營前ノ取扱ハ徵兵事務條例及徵兵事務條例施行細則ニ依ル

●勅令第三十七號 (廿二年三月十九日)

陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム

其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キモノハ次期ニ於テ入營セシメ其補欠員ハ次期入營スヘキモノヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

●陸軍省訓令甲第六號 (廿六年十月廿四日)

近衛師團司令部ヲ除ク

道廳府縣ヲ除ク

徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ翌年身體檢査ヲ行ヒ一般徵兵同様取扱フヘキノ處輜重輸卒ニ限リ左ノ通取扱フヘシ

一 疾病犯罪ノ爲メ第三期ニ入營シ難キ者ハ身體檢査ヲ行ハス直ニ所要人員ニ加ヘ其年新兵同時ニ入營セシムヘシ

其事故繼續シ若クハ再發シテ仍ホ次年第二期ニ至ルモ入營シ難キ者アルトキハ徵兵檢査ノ際身體檢査ヲ行ヒ其徵否ヲ判定スヘシ

廿三年五月陸軍省令第十五號
廿四年十月同令第八號參看

二 毎年徵募事務終了後ニ在テ前項ニ當ル者アルカ爲メ其年所要人員超過スルト
キハ第三期入營ノ時末番號ノ者ヨリ豫備徵員ニ繰下クヘシ

●條例第四十七條

●條例第五十條

●條例第五十一條

●條例第六十三條

●細則第三十八條

●三重縣ヨリ海軍省ヘ伺 (廿四年六月二十日官報)

徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ海軍志願兵徵募規則ニ依リ志願スルコトヲ得ルヤ
ト伺出テシニ志願スルヲ得スト指令セリ

●靜岡縣ヨリ陸軍省副官ヘ照會 (廿七年五月三十一日)

明治二十五年徵兵適齡検査ニ合格シタル後同年十月七日窃盜犯ニ依リ重禁錮五箇
月監視六箇月ニ處セラレタルヲ以テ徵兵令第二十七條ニ照シ昨二十六年再ヒ検査
ヲ遂ケ候處輜重輪卒ニ合格シ猶又同年十月二日同犯ニ因リ重禁錮八箇月監視六箇
月ニ處セラレ本年十二月一日ニテ滿刑ト相成ヘク候就テハ客年御省訓令甲第六號

第一項ニ據リ來ル二十八年第二期ニ入營セシムル筋ナルヤ又ハ同項第二ニ據リ更
ニ検査ヲ行ヒ其徵否ヲ定ムヘキ筋ナルヤ」トノ問合ニ對シ副官ヨリ來ル二十八年
第二期ニ入營セシメ可然ト回答セリ

●令第二十八條參看

●細則第二十三條

●令第二十九條參看

●山口縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (廿二年十二月十七日官報)

豫備後備服役中逃亡失踪ニ係ル日數ハ該服役年期ニ算入セサル旨徵兵令第二十九
條ニ明示アリ右ニ關シテハ去ル十八年元大坂鎮臺ヘ對シ召集中ニ係ルモノ、ミ償
勤セシムル義御達ノ次第モアリシカ右ハ改正後ニアリテモ同様相心得可然哉果シ
テ然リトセハ召集日數ヲ三週間ト假定シ第十日目ニ逃亡シタルノ場合ニ於テハ殘
日數十二日逃亡ノ當日ノミヲ償勤セシメ召集終了後幾歲月ヲ經テ歸投スルモノ之ニ
關係ナキ義ト心得可然哉又所刑日數ハ在郷中ニ係ルモノモ償勤セシムル儀ナル哉」

トノ伺ニ對シ同省ヨリ書面逃亡ノ者ハ其當日ヨリ歸投若クハ逮捕前日迄ノ日數ハ服役年朔ニ算入セサルモノトス處刑ノ者ハ伺ノ通ト指令セリ

●岡山縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十四年五月一日官報)

茲ニ陸軍歸休兵アリ明治二十三年四月二十日豫備役ニ編入セラレ同月十四日失踪シタル旨其親族ヨリ同月十九日付ヲ以テ村役場郡役所ヲ經テ同月二十三日監視區長ニ届出テタリ斯ノ如キ場合ニ於テハ豫備役編入ヲ取消シ現役ニ於テ償勤セシムヘキ義ト心得可然哉」トノ伺ニ對シ同省ヨリ伺之通ト指令セリ

●令第三十三條參看

●勅令第二百二十六號 (明治廿八年九月二十日)

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其他一定ノ生業ニ從事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉

籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

第三條 屯田兵ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

第四條 從來徵兵令ヲ施行セル函館、江差、福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

●陸軍省令第二十九號 (廿三年十月十五日)

陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ北海道徵兵令未行地ニ轉籍スル者ハ當分勤務演習及簡閱點呼ニ召集セス

●條例第六十七條

●條例第六十八條

●條例第六十九條

●滋賀縣ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課ヘ問合 (廿五年五月廿四日)

曩ニ兵庫縣知事ヨリ徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵未行地ヘ全戸轉籍又ハ分家移住セシ場合ニ於テ別ニ徵兵上規定無之候得共既ニ檢査ノ上合格セシモノ抽籤前並ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論徵集スル義ト相心得可然哉トノ伺ニ對シ徵集セサル旨御指令相成候然ルニ本月二十日官報第二千六百六十六號登載ノ貴省副官ヨ

リ兵庫縣知事へノ御通牒ニ依レハ右御指令ハ徵兵事務條例第五十條ノ改正ニ依リ全部消滅ニ屬シタルモノ、如クニ相見へ候得共條例第五十條ハ單ニ新兵入營前ノ規定ナルヲ以テ檢査後ト雖モ抽籤前ニ於テ令第二十八條ニ當ル者ト否トヲ問ハス總テ從前ノ如ク徵集セサル義ト承知致シ可然哉爲念及御問合候トノ問合ニ對シ御意見ノ通ト回答セリ

●兵庫縣ヨリ陸軍省へ伺 (廿四年九月十七日)

徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵令未行地へ全戸轉籍又ハ分家移住セシ場合ニ於テ別ニ徵兵上規定無之候得共既ニ檢査ノ上合格セシモノ抽籤前ハ並ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論徵集スル義ト相心得可然哉」トノ伺ニ對シ伺ノ趣徵集セサル義ト心得ヘシト指令セリ

●陸軍省副官ヨリ兵庫縣ニ通牒 (廿五年五月廿日官報)

客年九月十七日付ヲ以テ徵兵令未行地へ轉籍ノ者取扱ノ件御伺出ニ對シ當省御指令ノ趣モ有之候處今般徵兵事務條例第五十條改正ニ付テハ向後ハ右未行地ニ轉籍

ノ者ト雖モ同條ニ依リ可取扱義ニシテ最前ノ指令ハ自然消滅スル義ト通牒セリ

●滋賀縣ヨリ陸軍省へ問合 (廿五年五月二十日官報)

曩ニ兵庫縣知事ヨリ徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵令未行地へ全戸轉籍又ハ分家移住セシ場合ニ於テ別ニ徵兵上規定無之候得共既ニ檢査ノ上合格セシモノ抽籤前並ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論徵集スル義ト相心得可然哉」トノ伺ニ對シ徵集セサル旨御指令相成候然ルニ本月二十日官報第二千六百六十六號登載ノ貴省副官ヨリ兵庫縣知事へノ御通牒ニ依レハ右御指令ハ徵兵事務條例第五十條ノ改正ニ依リ全部消滅ニ屬シタルモノ、如クニ相見へ候得共條例第五十條ハ單ニ新兵入營前ノ規定ナルヲ以テ檢査後ト雖モ抽籤前ニ於テ令第二十八條ニ當ル者ト否トヲ問ハス總テ從前ノ如ク徵集セサル義ト承知致シ可然哉」トノ問合ニ對シ意見ノ通ト回答セリ

●令第三十六條參看

●舊令第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時

若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死歿又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ

承祖ノ孫

第五項 戸主

●陸軍省訓令甲第三號 (二十年四月五日)

徵兵令第十七條第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ徵集猶豫ニ属シ常備年期間ニ戸主ノ死亡跡若クハ退隱跡ヲ繼キ戸主トナル者ハ同令第三十六條ニ掲クル異動ノ外トシ取扱フ可シ(但書零ス)

●石川縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年三月五日官報)

徵兵令第三十六條ハ昨二十一年徵兵^{相當異}動トモニシテ未タ第二豫備徵員ニ編入セラレ

サル者^{舊令ニ據レハ}十二月一日ニ至^ノミニ適用スル儀ナルヤ^{同第三十六條ニ猶}豫ニ属シタル者ト之アリ右ハ昨二十一年徵兵^{相當異}動トモ^{舊徵兵事務條例第六十三條ノ}裁決濟ノ者ノミニテ同年徵兵署閉鎖後猶豫ノ事故止ミ舊令第十七條ノ資格ヲ得タ

ル者ハ含有セサルヤ^トノ問合ニ對シ同局ヨリ第一項ハ意見ノ通第二項ハ新令發布前即チ一月二十一日迄ニ舊令第十七條ノ資格ヲ得タル者ハ含有スル儀ナリト回答セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年三月十二日官報)

第二項(前畧)令第三十六條(中略)ノ七箇年ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキヤ^トノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算スト回答セリ

●大坂府ヨリ陸軍省副官へ問合 (廿二年三月十二日官報)

第三項第三十六條乃至第三十八條及第四十一條中何箇年トアルハ各自ノ年齢ニ拘

ラス例ハ文久元年五月生(即チ明治十五年徵兵)ニシテ明治十二年第四十六號布告ニ依リ平時免役ニ屬セシ者其後右免役名稱ヲ罷メ再ヒ舊令第十八條ニ當ル資格ヲ得タルニ由リ更ニ同條ニ依リ處分セシ者ノ如キハ其處分セシ年ヲ以テ第一年トシ其第七年若クハ第六年目ノ十二月迄ヲ以テ分界トスヘキヤ」第三項適齡年ヨリ起算シ第七年第八年目ノ徵募事務終結ヲ以テ分界トス

●令第三十七條參看

●舊令第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第二項官立府縣立學校小學校ヲ除ク及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

●法律第八號 (廿二年三月六日)

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ

●三重縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (廿二年一月十一日)

第二項客年三月法律第八號ハ特リ二十一年以前ノ適齡者ニ止マラス二十二年以後適齡者ニモ應用スヘキヤ果シテ然ラハ客年適齡ノ時尋常師範學校生徒ノ廉ヲ以テ令第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ同年十二月中卒業直チニ公立小學校教員トナリタル者ハ壯丁名簿假決欄内ニ其事由ヲ記シ令第三十七條第四十條ニ準據處分可然哉」トノ問合ニ對シ同月二十日前段ハ明治二十二年以前ノ適齡者ニ限ル後段ハ意見ノ通ト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局ヘ問合 (廿四年六月四日)

第二項令第三十七條ニ依リ徵集猶豫ノ者ニシテ其教職ヲ止メタルトキ届出ノ明文有之候處再ヒ教職ニ就キタルトキ届出ノ明文ナシ此場合ニハ其卒業證書及辭令書ノ寫ヲ以テ本籍市町村長ニ届出シメ町村長ハ之ヲ郡長ニ郡市長ハ之ヲ縣廳ニ申報スヘキヤ」ト問合セシニ同月廿三日同局第二軍事課長ヨリ第二項再ヒ教職ニ就キタルモノハ廿三年陸軍省訓令甲第二號第一項ニ依リ調査スヘキモノニ付其届出ヲ

要セスト回答セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省エ伺 (廿二年三月十九日官報)

小學教員ニテ徵集猶豫ニナリタル者ニシテ高等師範學校ニ入學セシムル者ハ引繼
キ猶豫ニ屬ス可キ哉ト伺出テシニ同省ヨリ伺ノ通更ニ新令第二十一條ニ依ルモ
ノトスト指令セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局エ問合 (廿二年三月十三日官報)

第二項(前略)令第三十七條(中略)ノ七箇年ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ
十二月一日ヨリ起算スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算スト回
答セリ

●山口縣ヨリ陸軍省エ伺 (廿二年三月廿一日官報)

十七年以前ノ徵兵相當者取扱方ハ去ル十一月官報長崎縣伺エ指令ノ通トスレハ新
令第三十七條乃至第三十九條第四十一條ハ十八年以後ノ相當者ト心得可然哉ト
伺出テシニ同省ヨリ伺ノ通ト指令セリ

●鳥取縣書記官ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課へ照會 (廿五年九月十九日)

第一項 舊徵兵令第十八條第二項相當ニシテ新徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期
ノモノ七箇年内ニ於テ明治二十四年十一月文部省令第二十號第五條ニ依リ休職
ヲ命セラレ、モ教員ノ資格ヲ存スルモノニ付徵集スヘカラサル儀ニ候哉
第二項 徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間ノ現役ヲ終リタル教員ニシテ其在官
ノ儘高等師範學校其他官立學校ニ入學セシモノハ國民兵ノ儘差措可然哉
但徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期ノモノ本文同様ノトキハ依然徵集延期可
相成哉トノ照會ニ對シ第二軍事課ヨリ兩項但書共御意見ノ通ト存候

●令第三十八條參看

●舊令第十八條左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス
第七項學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

●舊令第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉ス
ル者ハ太政官ノ裁決ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

●陸軍省副官ヨリ府縣知事へ通牒 (廿五年七月廿五日)

徴兵令第二十八條中舊令第十八條第七項該當ノ者ニシテ全ク外國留學ヲ罷メ歸朝シタル者ト父母ノ重病等ニ由リ一時歸朝シタル者ノ區別難相立自然徴集洩レトナルノ憂モ有之ニ付其事故止ムトキハ其旨公使又ハ領事ヨリ本人原籍管轄廳へ通牒候様當省ヨリ外務省へ協議相成候處今般外務大臣ヨリ在外公使領事へ別紙ノ通申達候旨同省ヨリ申越候條爲御心得此段及通牒候也

(別紙)

現行徴兵令第二十八條該當ノ者即チ舊徴兵令ニ依リ外國留學ノ廉ヲ以テ徴集延期ニ屬シ現行徴兵令發布ノ際延期年限未タ經過セサル者ニシテ其後延期ノ事故罷ミタル者アルトキハ其旨公使又ハ領事ヨリ本人原籍管轄廳へ通牒有之様取計方陸軍大臣ヨリ依頼有之候條現行徴兵令發布以後今日迄ニ既ニ延期ノ事故罷ミタル者ニ關シテハ此際取纏メ夫々原籍管轄廳へ御通牒相成度又今後其事故罷ミタル者アルトキハ其都度同様通知方御取計相成度候右ハ容易ニ事實ノ取調へ相付キ難キ事ト

存候得共可成丈御取調へ御通牒相成候様致度此段申進候也(廿五年七月十五日)
追テ父母ノ重病等ニヨリ一時歸朝シタル者并現行徴兵令ニ依リ延期ニ屬スル者ニ關シテハ本文通牒ヲ不要義ニ有之候條右爲念申添候也

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年三月十三日官報)

第二項(前畧)令第二十八條ノ七箇年(中畧)ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算スト回答セリ

◎令第三十九條參看

●舊令第三十一條 (前畧)第十八條第三項ノ生徒ニシテ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年三月十三日官報)

第三項(前畧)令第三十九條ノ滿二十七歲ハ生月ヨリ起算スヘキヤ將タ適齡年ノ十二月一日ヨリ起算スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算シ(中畧)

滿二十七歳トナル年ノ徵募事務終結ヲ以テ徵集猶豫ノ分界トスト回答セリ

●大坂府ヨリ陸軍省副官へ問合 (廿二年三月二十二日官報)

第四項第三十九條中年齡滿二十七歳迄ニ其事故ノ止ミタル者其年徵集スル能ハサルトキハ二十七歳ヲ過クルモ翌年之ヲ徵集スヘキヤ」第四項徵募事務終結後ニ係ル者ハ徵集セスト回答セリ

●令第四十條參看

●陸軍省訓令甲第六號 (廿二年十月三十一日)北海道廳府縣

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱亦本文ニ同シ

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年一月十一日)

第一條 茲ニ明治二十年第一次徵兵適齡者ニシテ其當時舊令第十八條第二項ニ依

リ徵集猶豫ニ属シ明治二十一年十二月他ノ死跡ヲ相續シ則チ舊令ニ照ラセハ二個ノ徵集猶豫資格ヲ併有セリ然レトモ第十八條ノ事故依然繼續セルヲ以テ單ニ其名簿ノ異動ヲ訂正スルニ止マリ名簿組替ヲ爲サス延テ改正後ニ及ヘリ (十八年七月川縣ヨリ伺ニ對シ同年九月十五日付貴省ノ御指) 然ル處客年八月ニ至リ右第十八條ニ基ツキ舊條例第十六條ノ書類ヲ添付セス) 然ル處客年八月ニ至リ右第十八條第二項ノ事故止ミタルヲ以テ令第四十條ニ依リ徵集スヘキ義ト認メ候得共前記ノ如ク改正以前ニ於テ二個ノ猶豫資格ヲ有スル者ニ付更ニ此際調査ヲ遂ケ果シテ舊令第十七條相當ナルトキハ相當名簿 (二十年第一次十七條相當名簿ヲ云フ) ニ編入可然哉」トノ問合ニ對シ同月廿日同局ヨリ意見ノ通但徵兵令第三十六條ニ依ルヘキモノトスト回答セリ

●令第四十一條參看

●舊令第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第三項官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

●舊令第十九條 官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ヲ除ク

ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫ス

●帝國大學總長ヨリ陸軍省總務局長ヘ問合 (廿二年八月廿二日官報)

高等中學校生徒卒業ノ上直ニ本學ヘ進入スル者ハ引續キ徵集猶豫中ノ者ニシテ其事故ノ止ミタルモノニナキヲ以テ其際別ニ兵役ニ關スル届出ヲ要セサル者ト思考スレトモ或ハ本學ヘ進入ノ證明書ヲ添ヘ届出ツヘキ旨郡區役所等ヨリ本人ヘ申聞クル向モ之アル趣ニテ聊カ疑義ニ涉レリ依テ意見承知シタシトノ問合ニ對シ同局長ヨリ舊令第十九條ニ依リ猶豫ニ屬シタル後直ニ大學ニ進入ノ者ハ意見ノ如ク別段兵役ニ關スル届出ヲ要セサル義ナリト回答セリ

●法律第八號 (二十二年二月六日)

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルニトテ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ

●宮城縣ヨリ陸軍省エ伺 (二十二年三月十八日官報)

本年法律第八號ニ依リ徵集ヲ延期スル者ハ徵兵事務條例第六十二條ニ準シ出願許可ヲ受クヘキモノナルヤ又本年適齡ニシテ昨年師範學校ヲ卒業シ學校教員タル者ハ延期セラレサルヤト伺出テシニ同省ヨリ前段ハ願出ニ及ハス届出シムヘシ後段ハ延期ニ屬スト指令セリ

●宮城縣ヨリ陸軍省總務局ヘ問合 (二十二年三月十三日官報)

第二項(前略)令第四十一條ノ六箇年ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキヤトノ問合ニ對シ同局ヨリ適齡ノ年ヨリ起算スト回答セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局ヘ問合 (二十五年二月四日)

第二項令第四十一條中猶豫年限ハ適齡ノ年ヨリ起算スルモノトセハ二十年第二次徵兵以後ハ適齡年ニ徵集スルニヨリ其年ヲ一年ト算スルモ適當ニ有之候得共二十年第一次以前ノ徵兵ニ在リテハ適齡年ノ翌年徵集スヘキ法規ニ付適齡年ヲ一年ト算スルハ少シク穩當ナラス依テ第一次以前ノ適齡者ニ在リテハ適齡年ヨリ翌年徵集事務終結迄ヲ一年ト算シ以下此例ニ例リ計算スル哉トノ問合ニ對シ同年四月

五日同局ヨリ二十年一次以前ノ者ト雖トモ適齡年ヨリ計算スヘキモノトスト回答セリ

●大坂府ヨリ陸軍省副官ヘ問合 (二十二年三月十三日官報)

第一項第四十條第四十一條ノ但書ハ各其本文年齡滿二十六歲若クハ六箇年ヲ過クル者ニモ適用スヘキヤ」第一項見解ノ通ト回答セリ

●令第四十二條參看

●舊令第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一箇年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

●第四師團ヨリ陸軍省エ申請 (廿二年三月十四日官報)

從來補充員服役中ノ者ハ官吏教員等ニ採用スルヲ得サル儀ニ有之シ處今般改正徵兵令第二十三條及第四十二條ノ豫備徵員ハ現役兵補填其年十二月三十一日後ニアリテハ諸官廳ニ於テ適宜採用差支ナキ儀ト心得可然哉但シ輻重輸卒ニアリテハ第三期入營

翌年八月以後ハ右同様心得可然哉」ト申請セシニ同省ヨリ但書トモ申請ノ通但シ三十一日以後ハ右同様心得可然哉」ト申請セシニ同省ヨリ但書トモ申請ノ通但シ入營期日ノ前後ニ拘ハラサルモノトスト指令セリ

●令第四十三條參看

●舊令第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿廿七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

●舊令第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七箇年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員トナリタル後六箇年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

●岡山縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十二年三月十一日官報)

當縣阿賀郡西方村山田準儀二十年第二次徵兵適齡ニテ帝國大學本科二ヶ年以上ノ科程ヲ卒リタル生徒ニ付身體検査受ケサセヘキ處當時其手續ヲ延ハセリ然ルニ本人ハ昨年七月卒業シ在校地ニ寄留セシヲ以テ其地ニ於テ検査ヲ受ケサセタキ旨同

年八月二十一日付兵事第四號ヲ以テ伺ヒシニ同三十日伺ノ通ト指令アリ據テ在籍郡長ヨリ寄留地區長エ檢査ノ義ヲ照會ニ及ヒタルニ徵兵署閉鎖後ニ付本年徵兵署開設ノ節更ニ申越アリ度旨回答アリ遂ニ檢査未済トナレリ然ルニ今般徵兵令改正相成リシニ付テハ同人ハ更ニ檢査ヲ受ケサセ合格スルトキハ令第四十三條ニ準シ直ニ國民兵ニ編入相成ルヘキ義ナルヤ將タ檢査之ナクシテ該條ニ準シ直ニ國民兵ニ編入相成ルヘキヤト伺出テシニ同省ヨリ後段伺ノ通ト指令セリ

●令第四十四條參看

●舊令第二十八條 左ニ掲クル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第一項 戶主

(但書畧ス)

第二項 獨子(嗣子)獨孫(承祖ノ孫)

(但書畧ス)

第三項 年齡五十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

(但書畧ス)

第四項 年齡五十歲以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子(嗣子)或ハ相續人

(但書畧ス)

第五項 年齡五十歲未滿ト雖モ癡疾又ハ不具等ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫及養子(嗣子)或ハ相續人

第六項 官吏(判任以上)及ヒ教導職試補以上并ニ戶長

第七項 府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

第八項 公立學校教員及ヒ文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學校教員

●舊令第二十九條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項 年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

(但書畧ス)

第二項 陸海軍生徒并ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項 陸海軍常備在役中死歿又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷痍ヲ受ケ退隱セシ者ノ

兄或ハ第一人

第四項 醫術開業免狀ヲ所持スルモノ

第五項 公立(使府縣ノ設立ニ係ル以下公立ト稱スル者之ニ同シ)師範學校ニ於テ卒業ノ者

第六項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業ノ者

第七項 文部省所轄官立學校及ヒ其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者
(但書畧ス)

第八項 外國ニ留學シテニケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル者

第九項 海員試驗免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ所持スル者

第十項 海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ執リタルコトヲ證明スルモノ

●舊令第三十條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ猶豫スヘシ

第一項 海員兵員ト爲ランコトヲ志願スル者

第二項 兄弟同時ニ徵兵ニ當ル者偶數ハ其半數奇數ハ其寡數(例ヘハ三人ハ一人五人ハ二人他皆之ニ倣フ)

第三項 陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ第一人

第四項 陸海軍生徒ノ兄或ハ第一人
(但書畧ス)

第五項 父及ヒ兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癡疾不具等ニテ産業ヲ營ムコト能ハス本人ヲ要セサレハ一家ノ生計ヲ失フ者

第六項 文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業一箇年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三箇年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第八項 學術修業又ハ商業等ニテ外國ニ寄留スル者

第九項 身幹未タ定尺ニ滿タヌ又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ仍ホ未タ勞役ニ堪
ユルコト能ハサル者

第十項 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

●長崎縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十二年二月十一日官報)

第一條 新徵兵令第四十四條ニ明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ
外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシムト之
アリ右ハ免役猶豫等ノ事故繼續ノ者ヲ直ニ國民兵役ニ服セシメラルヘキ義ト見
解セリ就テハ新令施行前十六、十七兩年徵兵ニシテ舊令ニ照ラシ徵集ニ應スヘキ
異動ヲ生シタル者ハ勿論徵集ニ應セシムヘキ義ト心得然ルヘキヤ」第二條 前條
異動者ニシテ若シ届出ヲ怠ルモ新令施行後ニ至リ檢出スルトキハ尋常兵同様取扱
ヒ別段告發ノ手續等ヲ要セサル義ト心得可然哉」但本條届出ヲ怠リシ者他年檢出
スルトキハ去ル十八年御省達甲第四十二號ニ依リ取扱可然哉」ト伺出テシニ同省
ヨリ一條ハ國民兵役ニ服セシムル者トス二條ハ前條指令ニ依リ了解ス可シト指令

セリ(達甲第四十二號ハ令第四十六條參看ニ出ス)

●令第四十五條參看

●舊令第八條 (前項零ス)

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適ス
ル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ據リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但
海軍志願兵徵募規則ニ據リ就役スル者ハ本令ノ限ニアラス

●舊令第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡二
十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

●舊令第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

●令第四十六條參看

●陸軍省達甲第四十二號 (十八年九月二十六日)

正當ノ故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ洩レ年齡三十二歳ヲ超過シ發覺ノ者ハ其
時々當省ヘ經伺ノ上處分致來候處自今年齡四十歳迄ハ經伺ヲ要セス徵集スヘキ義

ト心得ヘシ此旨相達候事

●海軍省令第五十號 (廿年五月廿三日)北海道廳府縣

徵兵令ニ據リ徵集シタル海軍現役兵ニシテ身上ニ異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戸主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡區長戸長與書證印シ横須賀鎮守府へ届出可シ

●陸軍省訓令甲第五號 (廿二年十月一日)北海道廳府縣

明治廿二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セサル者ヲ取調其住所氏名年齢ヲ記シ本年十一月三十日迄ニ當省へ差出ス可シ但所在發見シタルトキハ其部度届出可シ

●陸軍省令甲第四號 (廿三年二月廿日)北海道廳府縣東京府ヲ除ク憲兵司令部

明治二十二年以前ノ徵兵及陸軍豫備兵後備兵ニシテ失踪逃亡ノ者別冊ノ通候條警察官又ハ憲兵ヲシテ隨時搜查セシメ其所在發見シタルトキハ警察本署北海道ハ警察署府縣ハ本部又ハ憲兵隊ヨリハ徵兵ハ本籍所管ノ地方廳へ豫備兵後備兵ハ師團司令部へ通報セシム可シ(別冊ハ畧ス)

●陸軍省訓令甲第五號 (廿三年三月廿日)同上

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續ヲ爲シ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査スルニ及ハス

●陸軍省訓令甲第一號 (廿四年二月廿六日)北海道廳府縣

毎年現役兵トシテ徵集シ又ハ豫備徵員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキハ島司又ハ郡市長ヨリ各自ノ戸籍寫ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附セシム可シ

●滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺 (二十四年五月二十六日官報)

徵兵令第四十六條届出ノ義ハ戸主本人ノ區別明文ナキモ同令第二十五條届出ノ原則ヨリ推考スルトキハ勿論戸主ヨリ届出ツヘキヲ正當ノ義ト思考ス果シテ然ルトキハ同令第二十五條第四十六條ノ届出ハ同一ノ精神ニ出ツルモノト相心得可然哉ト伺出テタルニ伺ノ通但四十六條第二項ニ當ルモノ戸主ニアラサルトキハ本人ヨリ届出ツヘキモノナリト指令セリ

●三重縣ヨリ陸軍省軍務局へ問合 (廿五年三月四日)

第三項令第四十一條ニ依リ猶豫中其事故六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ舊令第四十六條第一項ノ届出ヲ要セサルハ勿論ニ有之且ツ之カ徵集手續等事務條例中明文モ無之ニ據リ自然徵集洩トナル場合モ有之候ニ付縣限リ徵集手續等適宜相定メ可然哉一トノ問合ニ對シ同年四月五日同局ヨリ明治廿二年當省訓令甲第三號ニ據リ取扱フヘキ旨回答セリ

●舊令第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ四月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後十一月二十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

●舊令第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者ハ翌年四月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但四月十六日以後十一月二十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

徵兵事務條例參看

◎條例第三條參看

●勅令第六十三號 二十六年七月五日(官報七月六日)

第一條 徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ更ニ之ヲ檢査區ニ分チ區ヲ以テ檢査區ト爲ス

第二條 徵兵事務條例中大隊區徵兵官ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ檢査區毎ニ大隊區司令官及區長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

第四條 徵兵事務條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區長之ヲ作リ一檢査區ニ取纏メ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第五條 東京市京都市大坂市ニ於テハ大隊區徵兵署ハ之ヲ檢査區ニ設ケ又抽籤總代人ハ檢査區毎ニ一名ヲ出スモノトス

第六條 東京市京都市大坂市ニ於テハ市ニ大隊區徵兵參事員ヲ置カス區ニ大隊區徵

兵參事員四名ヲ置キ市ノ大隊區徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム
 第七條 區ノ大隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其區内ニ住スル市公民中撰舉權ヲ有ス
 ル者ヨリ撰舉ス但其任期ハ市會議員ノ任期ニ同シ

●條例第四條參看

●陸軍省令第十一號 (二十二年五月十一日)

徵兵事務條例第四條ニ依リ步兵聯隊ノ兵員ヲ徵集スヘキ聯合大隊區左ノ通定ム

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 步兵第一聯隊 | 麻布大隊區 | 橫濱大隊區 |
| 步兵第十五聯隊 | 高崎大隊區 | 長野大隊區 |
| 步兵第二聯隊 | 佐倉大隊區 | 水戸大隊區 |
| 步兵第三聯隊 | 本郷大隊區 | 宇都宮大隊區 |
| 步兵第四聯隊 | 仙臺大隊區 | 福島大隊區 |
| 步兵第十六聯隊 | 新發田大隊區 | 柏崎大隊區 |
| 步兵第五聯隊 | 青森大隊區 | 秋田大隊區 |

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 步兵第十七聯隊 | 盛岡大隊區 | 山形大隊區 |
| 步兵第六聯隊 | 名古屋大隊區 | 津大隊區 |
| 步兵第十八聯隊 | 豊橋大隊區 | 静岡大隊區 |
| 步兵第七聯隊 | 金澤大隊區 | 富山大隊區 |
| 步兵第十九聯隊 | 岐阜大隊區 | 福井大隊區 |
| 步兵第八聯隊 | 大坂大隊區 | 和歌山大隊區 |
| 步兵第九聯隊 | 大津大隊區 | 京都大隊區 |
| 步兵第十聯隊 | 姫路大隊區 | 岡山大隊區 |
| 步兵第二十聯隊 | 神戸大隊區 | 宮津大隊區 |
| 步兵第十一聯隊 | 廣島大隊區 | 山口大隊區 |
| 步兵第二十一聯隊 | 尾ノ道大隊區 | 松江大隊區 |
| 步兵第十二聯隊 | 丸龜大隊區 | 徳島大隊區 |
| 步兵第二十二聯隊 | 松山大隊區 | 高知大隊區 |

| | | |
|----------|-------|--------|
| 步兵第十三聯隊 | 熊本大隊區 | 宮崎大隊區 |
| 步兵第二十三聯隊 | 大分大隊區 | 鹿兒島大隊區 |
| 步兵第十四聯隊 | 小倉大隊區 | 佐賀大隊區 |
| 步兵第二十四聯隊 | 福岡大隊區 | 長崎大隊區 |

●條例第八條參看

●埼玉縣ヨリ陸軍省へ伺 (二十五年八月三日電報)

明日ヨリ旅管徵兵署開設ノ處書記官事由アリテ出席スルコト能ハス就テハ臨時他ノ高等官ヲシテ代理セシムヘキヤ又ハ缺席ノ儘ニテ差支ナキヤ折返シ御指揮ヲ待ツル首席ノ高等官ニ代理セシムヘシト指令セリ

●條例第十一條參看

●細則第十五條

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年四月二十四日)

第二項郡市徵兵參事員ハ其徵募區ノ徵兵署開設中職務ニ従事スルモノ、如ク被存

候處徵兵署閉鎖後抽籤前ニ於テ徵兵令第二十條ニ當ル者アルトキハ郡市徵兵參事員ノ意見ヲ徵セス大隊區徵兵官ニ於テ審議處分ヲ爲ス義ト心得可然哉」第三項徵兵令第二十條ニ當ル出願者ハ其自活シ能ハサル狀況ヲ願書ニ詳記シ確證書類ヲ添付セシメ又市町村長ニ於テ實地ニ就キ調査セシムルノ手續相設置候ニ付郡市徵兵參事員ハ其書類又平素見聞スル處ノ事實ヲ斟酌審議ヲ遂クヘキ義ト存候得共万一實況ヲ調査セサレハ意見難決旨陳述スル場合ニアリテハ該員自ラ實地ニ就キ調査スルコトヲ得ヘキ哉果シテ然ラハ其手當及旅費金等ハ官給可相成乎」トノ問合ニ對シ二十二年五月廿五日同局ヨリ第二項旅管徵兵署ニ於テ府縣徵兵參事員ノ審議ニ附スルモノトス第三項意見ノ通ト回答セリ

●條例第十二條參看

●二十六年七月勅令第六十三號(條例第三條參看ニ出ス)

●內務書記官ヨリ府縣知事へ通知 (廿五年四月十一日)

本月五日勅令第三十三號ヲ以テ徵兵事務條例中改正相成候ニ付テハ同例第十二條

ニ依リ市ニ屬ス徵兵參事員ハ此際改撰シ府縣郡ニ屬スル徵兵參事員ハ府縣制郡制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ其施行迄ハ改正ヲ要セサル義ニ候云々

●條例第十三條參看

●郡制第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互撰シタル名譽職參事會員ノ補充員二名ヲ互撰シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

●條例第十四條參看

●陸達第十九號 (廿五年三月十八日)

徵兵醫官徵兵検査報告手續(本文ハ畧ス)

●條例第十五條參看

●勅令第二號 廿八年一月八日(官報一月十一日)

戰時又ハ事變ニ際シテハ徵兵事務條例第十五條ノ規程ニ依ラス旅管徵兵醫官ハ陸

軍一等軍醫ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ハ雇員ヲシテ之ニ從事セシムルコトヲ得但雇員ハ醫術開業免狀ヲ所持スル者ニ限ル雇員ヲシテ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ニ從事セシムルトキハ徵兵體格ノ等位ノ適否ハ旅管徵兵醫官之ヲ判定ス

●條例第十六條參看

●條例第十七條參看

●福岡縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (廿二年四月五日官報)

徵兵事務條例第十六條ニ依レハ府縣屬ハ旅管徵兵署ノ事務ヲ調理スルニ止ル儀ナルカ郡市書記ノ事務上監査等ノタメ府縣知事ノ見込ヲ以テ屬官ヲ各大隊區徵兵署又ハ検査所ヘ出頭セシムルモ差支ナキヤト伺出テシニ同省ヨリ伺ノ通ト指令セリ

●陸軍省訓令甲第五號 (廿五年四月五日)北海道廳府縣

徵兵身體検査ノ際壯丁ノ身長ハ大隊區又ハ警備隊區徵兵署事務員ヲシテ測定セシ

ム可シ

●條例第十八條參看

●陸軍省訓令甲第四號 (廿五年四月五日)

徵兵事務條例第十八條ノ徵兵醫官補助員ノ定員ハ一徵募區ニ三名トス但實際ノ便宜ニ依リ數徵募區ヲ通シテ同一人ヲ採用スルコトヲ得

●愛知縣ヨリ陸軍省軍務局へ問合 (廿五年四月十二日官報)

御省訓令甲第四號但書數徵募區トアルハ各徵募區カ同一人トアルハ三名ノ内一人ノコトカ「トノ問合ニ對シ數徵募區トハ二箇以上ノ徵募區ヲ指シタルモノナリ同一人トハ同一ノ者ヲ指シタルモノナリト回答セリ

◎條例第二十三條參看

●條例第六十九條

●細則第一條

●細則第二條

●細則第二十七條

●細則第二十八條

●細則第三十二條

●三重縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (廿二年三月十一日官報)

壯丁名簿用紙ハ戶長役場費ヨリ支辨ス可キヤ「トノ問合ニ對シ全局ヨリ意見ノ通リト回答セリ

◎條例第二十四條參看

●細則第四條

◎條例第二十五條參看

●細則第三條

●細則第五條

◎條例第二十六條參看

●陸軍省令第五號 (廿四年四月十五日)

徵兵令第二十七條ニ依リ徵集スヘキ者ハ徵兵檢査ノ際更ニ身體檢査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ノミ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘ入營セシム但徵集ニ適セサル者 徵集免除者ヲ除クハ尙ホ次年同一ノ處分ヲ爲スモノトス

●細則第六條

●細則第七條

條例第廿四條第廿五條第廿六條參看

●細則第八條

●條例第二十七條參看

●細則第十一條

●細則第十二條

●條例第二十九條參看

●細則第十三條

●細則第二十條

●條例第三十條參看

●細則第十條

●條例第三十一條參看

●細則第三十條

●條例第三十二條參看

●陸軍大臣ヨリ各師團司令部へ訓令

(廿五年四月六日 送乙第六二二號)

徵兵事務條例及同條例施行細則中改正ニ依リ陸軍兵ハ各兵種ノミヲ區分シ抽籤ヲ行フ可キ筈ニ付近衛兵ハ現役當籤者中體格甲種ニシテ品行方正ノ者ヲ撰ヒ之ニ充

テシム可シ

●細則第十八條

●細則第十九條

●細則第二十條

●細則第二十一條

●細則第二十二條

●條例第三十四條參看

●細則第二十二條

●條例第三十五條參看

●細則第二十一條

●條例第三十六條參看

●細則第二十三條

●細則第二十五條

●條例第三十七條參看

●陸軍省訓令甲第二號

二十七年二月二十一日(官報二月二十一日)

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケサル者ニシテ志願ニ依リ現役軍人ト爲リ服役

三箇年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵檢査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘシ

但明治二十一年陸軍省訓令甲第六號 師團司令部ヘハヲ廢ス
訓令乙第一三號

●細則第二十四條

●細則第四十四條

●條例第三十八條參看

●細則第二十六條

●條例第四十七條參看

●勅令第三十七號 (廿二年三月十九日)

陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス

疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キモノハ次期ニ於テ入營セシメ其補缺員ハ次期入營スヘキモノヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム

但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

●陸軍省令第七號 (廿二年三月廿五日)

一 警備隊兵卒ノ入營期限ハ左ノ如シ

第一次 十二月一日

砲兵助卒ハ二月一日

第二次 六月一日

砲兵助卒ハ八月一日

一 疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ノ補缺員ハ第一次第二次共其月ノ十日迄ニ入營セシム

一 前項ノ事故ニ由リ第一次ニ入營シ難キ者ハ第二次ニ第二次ニ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ新兵同時ニ入營セシム

一 前諸項ニ掲クルモノ、外入營前ノ取扱ハ徵兵事務條例及徵兵事務條例施行細則ニ依ル

●細則第三十六條

●條例第四十八條參看

●陸達第百六十一號 (廿二年十一月十二日)

第七條陸軍新兵入營ノ時大隊區司令部所在地他ノ地ニ召集シタルトキハ其地ヨリ入營地迄ノ間ハ第一條ニ依リ賃金ヲ減却シ乗船スルコトヲ得ヘシ

●陸達第百六十二號 (廿二年十一月十一日)

第八條陸軍新兵入營ノ時大隊區司令部所在地他ノ地ニ召集シタル時ハ其地ヨリ入營地迄ノ間ハ本手續ニ依リ乗車スルコトヲ得

●海軍省訓令第一號 (二十三年三月十日)

府縣海軍新兵入營ノ時私設鐵道條例第二十一條ニ依リ乗車セシムルトキハ徵兵ナレハ集合地ヨリ入營地マテノ乗車證券ヲ新兵受領員ヨリ附與シ志願兵ナレハ出發地ヨリ入營地マテノ乗車證券ヲ徵募官ヨリ府縣廳ヲ經テ附添人ニ交付シ付添人ヨリ之ヲ附與スルモノトス

●海軍省告示第六號 (二十三年三月十日)

私設鐵道條例第二十一條ニ依リ乗車スル軍人軍屬ニ附與スヘキ乗車證券及搭載ス

ル物品ノ輸送證券左ノ通定ム

(錐形畧ス)

●細則第三十四條

●細則第三十五條

●青森縣ヨリ陸軍省ヘ伺 (二十二年十月官報)

近衛海軍新兵入營旅費本縣ニ於テ支給スルハ集合地迄ノ分ナルヤトノ問合ニ對シ入營地迄支給スヘキモノトスト指令セリ

●條例第四十九條參看

●陸軍省令第二十一號 (二十三年七月八日)

今般陸軍軍人休暇規則改正セラレ候ニ付テハ下士兵卒ノ休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及ヒ出願ノ手續等左ノ各項ニ據ル可シ
一陸軍下士兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ二週日以内ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作り病氣ナレハ醫師ノ診斷書市町村長特別市制施行地ハ區長以下同シノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛

- 差出スヘシ但掌務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアル可シ
- 一前項ノ外下士ニ在テハ毎年二週日以内ノ休暇ヲ與ヘ歸郷又ハ旅行ヲ許スコトアリ又營外居住ノ下士兵卒ニハ轉地療養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以内ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ
 - 一休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延期ヲ願フトキハ本人又ハ親族ニ於テ願書ヲ作り醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛差出スヘシ
 - 一休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除ク外休暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス
 - 一途中發病川留船待雪支等ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸着ノ上差出スモノトス
 - 一休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許証ヲ携帶シ陸軍定制ノ服ヲ着ス

六寸

| |
|-----------------------|
| 兵種隊號(所管) 官(兵卒職工)姓名 |
| 表 休暇免許證 |
| 職官姓名印 |

裏

| |
|-------------------------------------|
| 一此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス |
| 一休暇日數何日(往復日數何日) |
| 一何月何日何時何地出發何地ニ至リ何月何日何時マテニ必ス何地ニ歸着スヘシ |
| 年月日 |

一市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務區長又ハ戶長ニ於テ取扱ヘシ

●海軍省告示第十二號 (廿二年八月十四日)

父母ノ重病ヲ看護セシムル爲メ海軍現役下士卒ノ歸郷ヲ要スルトキハ親族若クハ近隣戶主二人以上連署ノ願書ニ市町村長又ハ區長ノ證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人服務ノ艦團隊校廳ニ願出ツヘシ

●細則第三十七條

●條例第五十一條參看

條例第五十一條參看

條例第五十三、五十四、五十七、六十一、六十二、六十四條參看 五〇〇

●細則第三十八條

●條例第五十三條參看

●細則第三十九條

●條例第五十四條參看

●細則第二十八條

●細則第四十二條

●條例第五十七條參看

●細則第四十六條

●條例第六十一條參看

●細則第四十五條

●條例第六十二條參看

●細則第十七條

●條例第六十四條參看

●細則第四十條

●細則第四十三條

●大藏省令第十七號 (二十年十二月十六日)

徵兵旅費定則

第一條 徵兵旅費ハ檢査及入營ノ二種トシ片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス

檢査旅費ハ檢丁呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癩疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人檢査所又ハ抽籤所へ往復ノ旅費トス

入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第二條 檢査旅費ハ一里ニ付金貳錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ割ヲ以テ支給ス但一里未滿ノ端里數ハ切捨トス

官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルトキ檢査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ金貳拾八錢ノ滞在日當ヲ支給ス

官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルニアラスト雖モ川留雪間ニシテ途中ニ滞在中ニ滞在スルトキ其地戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キトキハ

條例第六十四條參看

渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキ檢査旅費ニ在テハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地勢上渡航又ハ瀛車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラス其實費瀛車瀛船ハ可ヲ支給スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行徒歩旅行ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里詰トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延着セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癩疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ車駕賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ車駕ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添へ請求スルトキハ車駕賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ到ル郡區書記若クハ戶長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

●石川縣ヨリ大藏省主計局へ問合 (廿一年十二月一日官報)

新兵入營ハ片道三里未滿三里以上ノ者共附添人ヲ要シ總テ入營前日迄ニ到着爲致候ニ付テハ三里未滿ノ者へハ入營前日ノ宿泊料一日分金貳拾錢ヲ給シ三里以上ノ者へハ里程ニ對スル旅費ヲ給シ宿泊料ハ支給難相成方ト存候果シテ然ラハ片道三里以上五里未滿ノ者ハ其支給額三里未滿ノ者ヨリ却テ減少シ不權衡ヲ感シ候ニ付支給方如何取計可然哉」トノ問合ニ對シ同局ヨリ入營前日ニ到着セシメタル者定則第二條第一項ノ旅行費額第三條第二項ノ宿泊料ニ對比シ少額ノ場合ハ旅行費ヲ

給セス宿泊料ヲ支給スルコトヲ得ト回答セリ

●三重縣ヨリ大藏省主計局へ問合 (廿一年九月十二日)

徴兵旅費定則第六條ニ癩疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ云々トアリ右ノ成文ニヨリ見ルトキハ單ニ癩疾不具ノ二種ニ止マリ一時疾病ニ罹リ車駕ヲ用ユルニアラサレハ出頭シ能ハサル者等ニハ支給シ能ハサルモノ、如ク相見候得共抑モ車駕賃ヲ支給セラル、精神上ヨリ之ヲ見ルトキハ假令顯全タル癩疾不具ニアラサルモ疾病ノ爲メニ車駕及保護人ヲ要スルニアラサレハ出頭シ能ハサルモノモ其權衡上相均キヲ以テ旅費日當及車駕賃共支給シ不苦哉」トノ問合ニ對シ二十一年九月十九日同局ヨリ徴兵旅費定則第六條御質問ノ趣承了右ハ第七條新兵入營ト逕底有之檢丁及其父母ハ癩疾不具ナル者ニ限り車駕賃ヲ支給候筈ニ有之候旨回答セリ

●和歌山縣内務部長ヨリ陸軍省軍務局第二軍事課長へ問合 (廿四年十一月四日)

徴兵令第廿六條ノ許可ヲ得タルモノ抽籤前ハ勿論現役ハ入營迄豫備徴員ハ服役ヲ終ル迄ハ原籍ニ復歸シ又ハ寄留替ヲナスコトヲ得サルヤノ旨明治廿二年三月岡山

縣伺ニ對シ同年四月内務陸軍兩大臣ヨリ寄留替又ハ原籍ニ復歸スルコトヲ得ルト雖モ前寄留地徵募區ヨリ徵集ニ應スヘキモノトスト御指令有之其寄留地徵募區ヨリ徵集ニ應セシムルモノトセハ其入營旅費ハ前寄留地ヨリ入營地迄ノ里程ニ依リ前寄留地所管ノ徴兵費ヨリ支辨スヘキ筋ニ候ヤ」トノ問合ニ對シ同月二十八日御見込ノ通リト回答セリ

●内務省訓令第九號 (廿年二月十七日)府縣

徴兵檢査ノ節醫師等一時限リ雇入ノ者解雇スルトキハ該地ヨリ最初採用セシ節ノ本人居住地迄旅費ヲ支給ス可シ

●内務省令第六號 (廿二年四月廿四日)

徴兵參事員手當金并旅費支給規則

一手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ問ハス出務日數ニ應シ一日金壹圓ヲ支給ス
一旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル但地方ノ狀況ニ依リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルヲ得

廿四年八月十六號參看

旅費額

| | | | |
|------|-------|------|------|
| 瀛車賃 | 瀛船賃 | 車駕賃 | 日當 |
| 一哩毎ニ | 一海里毎ニ | 一里毎ニ | 一日毎ニ |
| 金四錢 | 金五錢 | 金十錢 | 金七十錢 |

●三重縣知事ヨリ内務省縣治局長へ問合 (二十二年六月十七日)

本年内務省令第六號徵兵參事員手當金并旅費支給規則第一項手當金支給方法ノ出務日數中ニ徵兵署へ往復ノ旅行日ヲモ包含セル義ト心得可然哉」トノ問合ニ對シ同月廿五日同局長ヨリ意見ノ通ト回答セリ

●海軍省乙第七號 (廿八年六月一日)府縣

海軍徵兵入費ニ係ル事務自今大藏省ニ於テ主管候條右ニ係ル件ハ同省へ可申出此旨相達候事

●青森縣ヨリ内務省へ伺 (二十二年五月廿二日官報)

第一條 改正徵兵事務條例第六十六條ニ依リ左記ノ諸費ハ悉皆府縣徵兵費ヲ以テ

支辨シ然ルヘキヤ」

- 一 縣徵兵參事員并ニ郡市徵兵參事員手當及旅費
- 二 旅管徵兵署大隊區徵兵署及檢査所ノ地方徵兵醫員給料旅費
- 三 同上各所ノ諸器械新調修繕費及借上料等一切ノ費用
- 四 同上各所借上料及消耗品(薪炭油茶類雜用品トモ)等ノ費用
- 五 同上各所ニ於テ調査スヘキ諸名簿ノ用紙及版木印章ヲ始メトシテ通信運搬費印刷等一切ノ費用
- 六 同上各所ニ於テ事務ノ都合ニ因リ夜勤セントキ事務員(陸軍部内ノ吏員ヲ除ク)并ニ參事員ニ給スル賄料及小使賄料等但シ派出先滞在日當ヲ支給スルモノヲ除ク
- 七 同上各所ニ於テ雇入ル、小使給料及人夫賃等一切ノ費用

第四條 徵兵費ノ内文具料ノ科目之アリ右ハ徵兵署及檢査所事務員(陸軍部内ノ

吏員ヲ除クニハ本縣適宜定ムル所ノ其給與規則ニ依リ本費ヨリ支給シ可然哉
第五條 前條果シテ然ラハ事務員使用ノ者ヲ除クノ外ハ現品ヲ徵兵署及檢査所へ
本費ヲ以テ配置スルハ勿論ニ之アルヘキヤ

第六條 徵兵費ノ内内國旅行ノ節附添人旅費ナルモノ之アリ右ハ改正徵兵事務條
例第四十八條ニ依リ大隊區司令部若クハ便宜召集ノ地マテ市郡吏員ノ附添ヲ爲
ス者ニ支給スル儀ナルヤ又ハ右旅費ハ相當市吏ハ同費郡吏ハ地方稅支辨ニ屬シ
大隊區副官及書記ノ附添旅費ヲ支辨スル儀ナルヤ但シ市町村吏前段ノ場合ニハ
其市町村ニテ定ムル所ノ金額ヲ其方法ニ依リ支給スヘキヤ

第七條 改正徵兵事務條例中筆生ナルモノ之ナシ然ルニ到底之ヲ雇入レサルトキ
ハ事務上差支ヲ生スルハ顯然ノ儀ニシテ且ツ徵兵費ノ科目ニモ之アルヲ以テ便
宜雇入ルハ各徵兵署及檢査所ノ都合ニ依ル義ナルヤ

第八條 改正徵兵事務條例第三十四條第三項ノ抽籤總代人ハ籤丁外ノ者ヲ撰擧ス
ルモ妨ケナキ義ト者ヲ果シテ然ラハ郡吏員ヲ抽籤總代人ニ撰擧セシトキハ從前

ノ通り官相當ノ旅費額又市町村吏員全上ノ場合ハ市町村ニ於テ適宜定ムル所ノ
方法ニ依リ其旅費額ヲ官給スル義ナルヤ」ト伺出テシニ全省ヨリ第一條第五項
ハ諸名簿中新兵監視名簿豫備徵員監視名簿ヲ除クノ外第六項ハ陸軍吏員ノ分ト
モ但書ノ者ヲ除クノ外總テ徵兵費ヨリ支辨スヘシ其他各項伺之通り」第四條本
務ノ方ニ於テ文具料ヲ受クル者ニハ支給スルヲ得ス」第五條文具料ヲ受ケサル
者ニハ伺之通」第六條附添人旅費ハ訓令第十九號ノ通但召集地迄郡吏員ノ附添
ヲ要セス」第七條筆生ハ徵兵費ヲ以テ雇入ルヘキ限ニアラス但科目ハ訓令第十
九號ノ通」第八條抽籤總代人旅費ハ明治二十年大藏省令第十七號徵兵旅費定則
ニ依リ支給スヘシト指令セリ

●條例第六十九條參看

●細則第三十二條

徵兵事務條例參看終

條例第六十九條參看

徵兵事務條例施行細則參看

徵兵事務條例施行細則參看

●細則第四條參看

●條例第二十四條

●細則第五條參看

●條例第二十五條

●細則第十條參看

●條例第三十條

●細則第十三條參看

●條例第三十一條

●細則第十五條參看

●條例第十一條

●巖手縣ヨリ陸軍省へ伺

(二十二年四月二十日官報)

徴兵事務條例施行細則第十五條中徴兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者云々ト有之故ニ二十二年徴兵適齡ノ者ハ二十四年ニ至リ事故仍ホ止

マサルトキハ右ノ取扱ヲ爲スモノ、如クナレトモ令第二十條ニハ三年ヲ過クルモノトアルヲ以テ二十二年適齡者ハ二十五年徵募事務ノ節ニ至リ右ノ如ク取扱フヘキ義ナルヤ」ト伺出テシニ同省ヨリ伺ノ通ト指令セリ

●細則第十七條參看

●條例第六十二條

●細則第十八條參看

●條例第三十二條

●細則第二十條參看

●滋賀縣ヨリ陸軍省總務局へ問合 (二十二年五月十一日官報)

徵兵事務條例施行細則第二十條ニ示サレタル籤丁名簿ハ籤札ト同時調製ヲ要スルモノナレハ專ラ郡市書記ヲシテ從事セシメ其費用ハ郡市役所ヨリ支辨セシムル儀ナルヤ」トノ問合ニ對シ同省副官ヨリ郡市書記ヲシテ從事セシムル儀ハ意見ノ通籤丁名簿及籤札ノ費用ハ徵兵費ヨリ支辨スヘキ儀ナリト回答セリ

●細則第二十二條參看

●條例第三十四條

●細則第二十四條參看

●條例第三十七條

●細則第二十五條參看

●條例第三十八條

●細則第三十條參看

●條例第三十一條

●細則第三十二條參看

●條例第六十九條

●細則第三十九條參看

●條例第五十二條

●第五師團ヨリ陸軍省軍務局へ問合 (二十五年八月十八日官報)

細則第三十九條但書ニ係ル者ノ滞在若クハ歸郷旅費等ハ何ニ於テ支給スヘキ筋ナルヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ右ハ地方廳ニ於テ徵兵費ヨリ支給スヘキ筋ナリト回答セリ

●細則第四十條參看

●神奈川縣ヨリ海軍省第一局(問合) (二十二年三月廿九日官報)

二十年五月海軍省訓令第五十號徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役兵身上異動届出方ノ件ハ徵兵事務條例施行細則第四十條ニ依リ自然消滅セシヤ否ヤ」トノ問合ニ對シ同局ヨリ入營前ノ届出方ハ同則第四十條ニ依リ入營後ニアリテハ從前ノ通ト回答セリ

徵兵事務條例施行細則終

| |
|-------------------|
| 明治二十五年六月十日第一版出版 |
| 明治二十五年十一月廿八日第二版出版 |
| 明治二十六年五月四日第三版發行 |
| 明治二十八年五月廿三日第四版發行 |
| 明治二十八年十一月十二日第五版發行 |
| 明治二十九年三月十三日第六版印刷 |
| 明治二十九年三月廿一日第六版發行 |

(定價金四拾八錢)

著作兼發行者

春日井是信



三重縣伊勢國津市
上濱町百貳番屋敷

印刷者

鈴木嘉兵衛

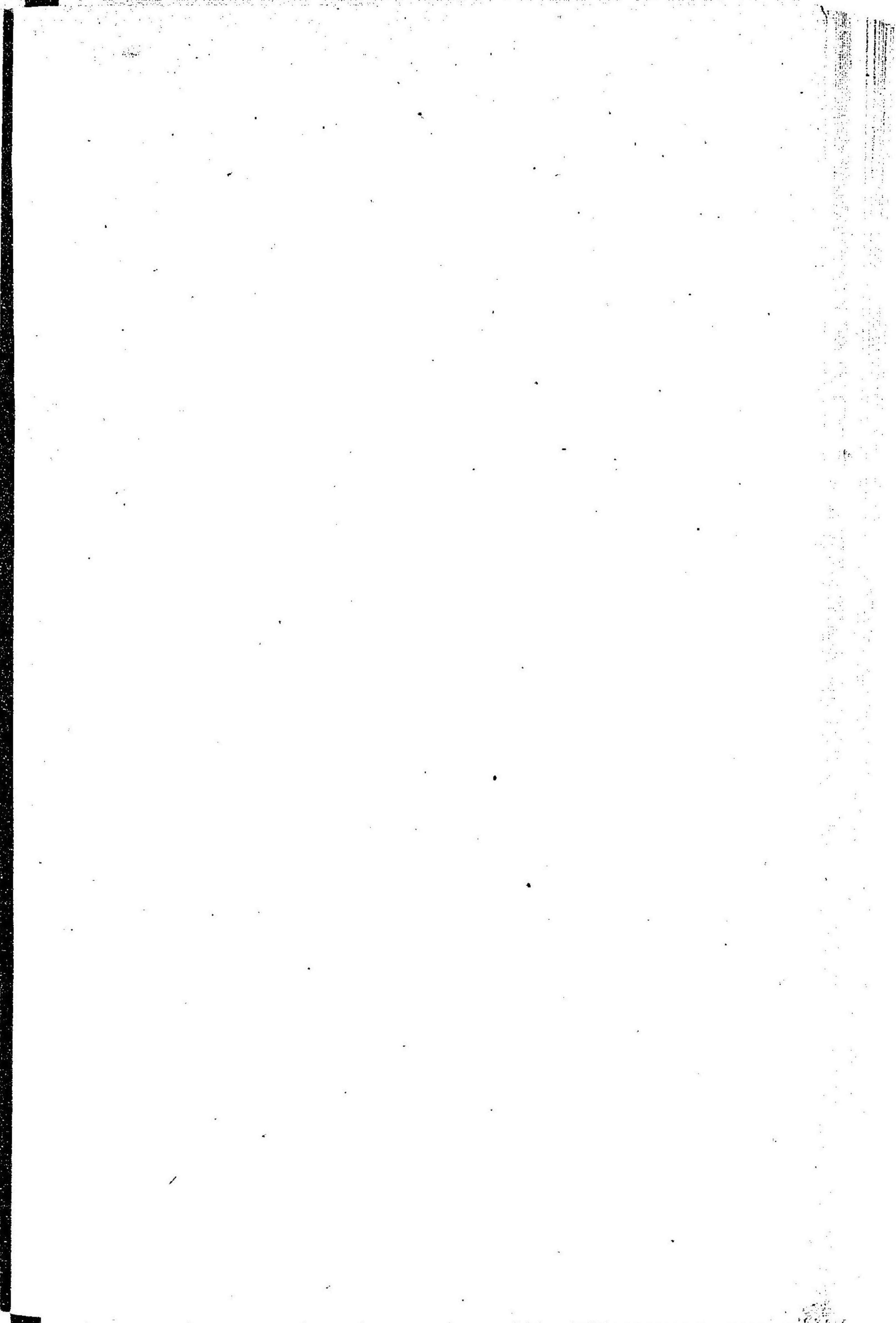
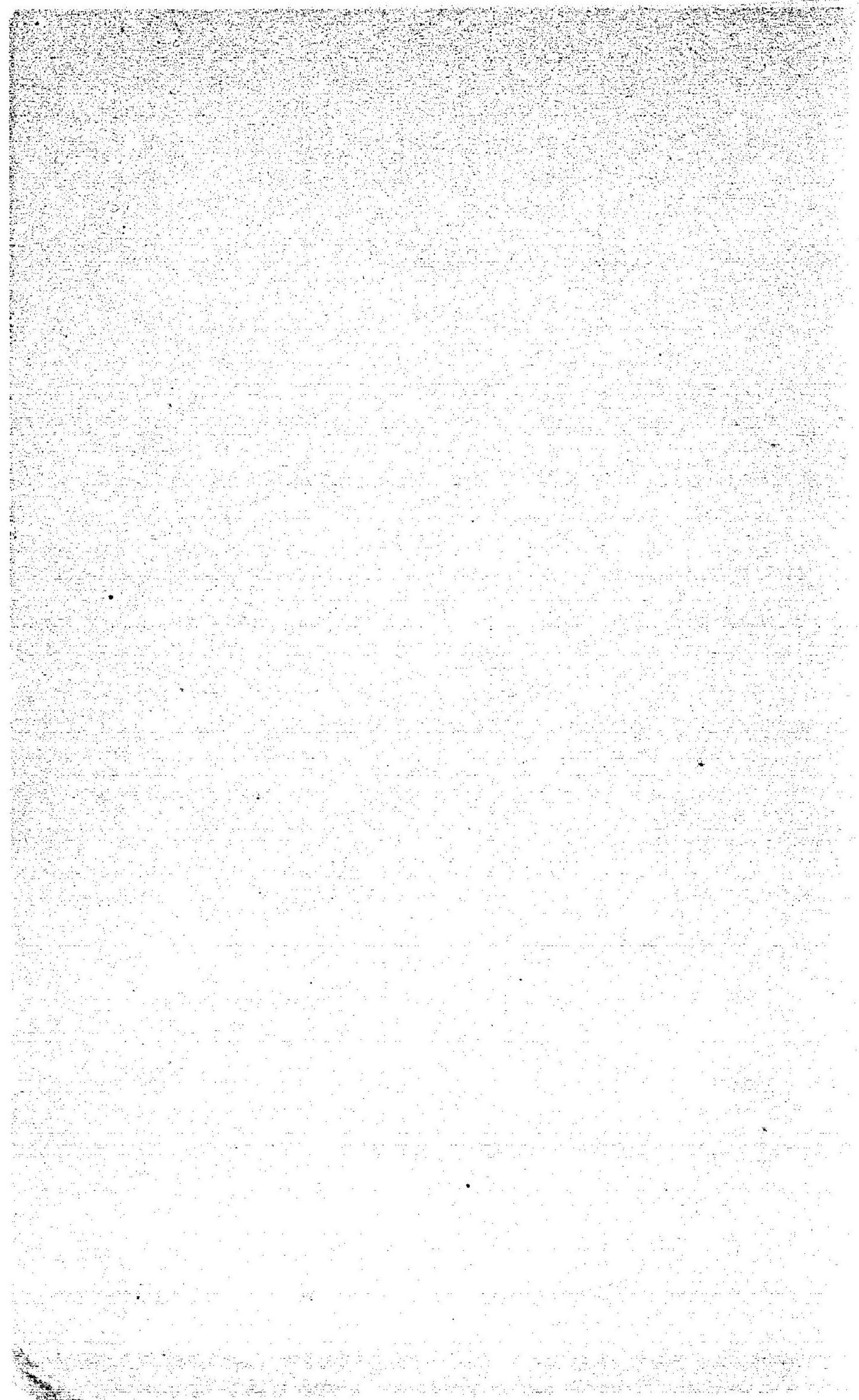
三重縣伊勢國津市
釜屋町廿一番屋敷

同 上

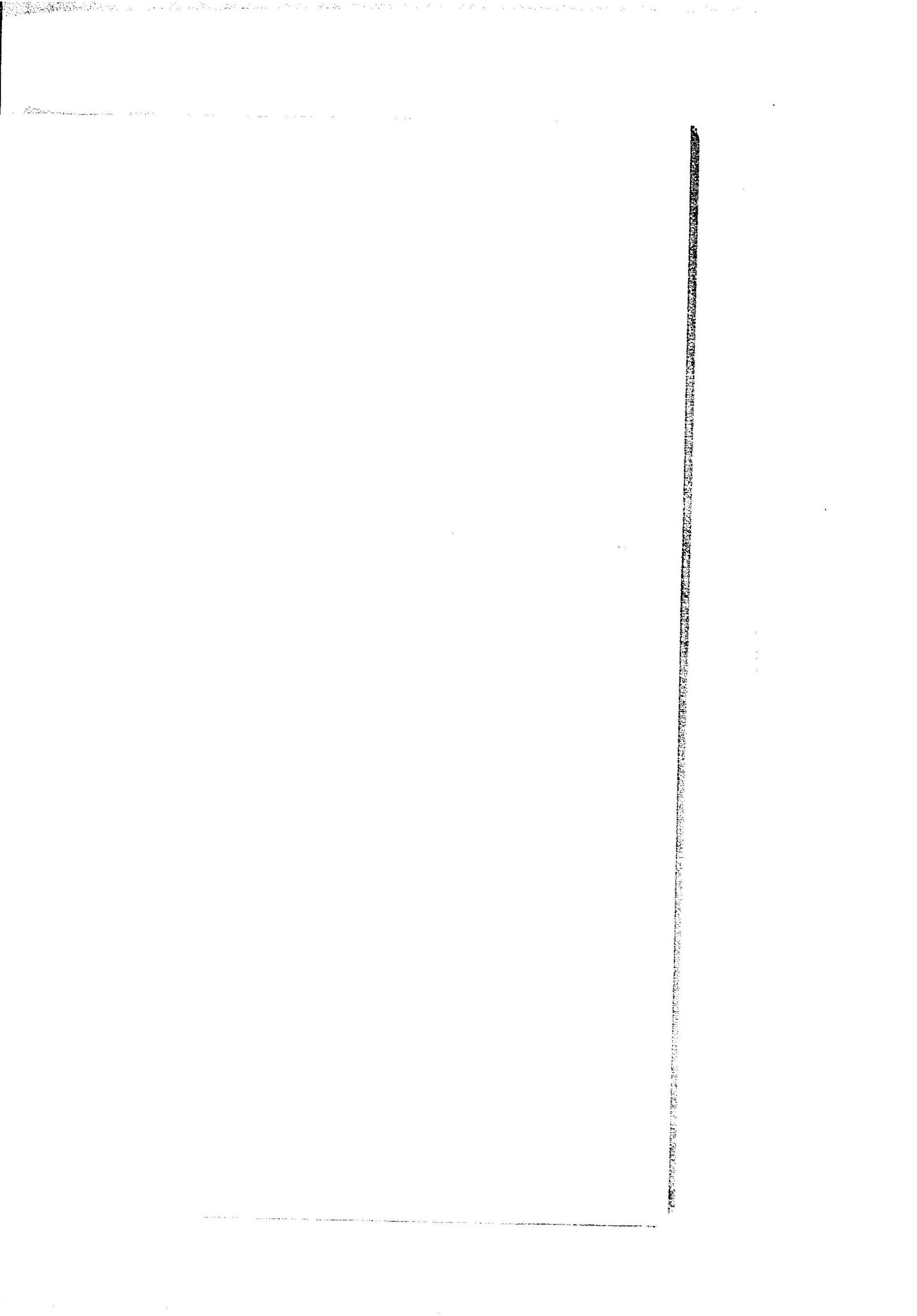
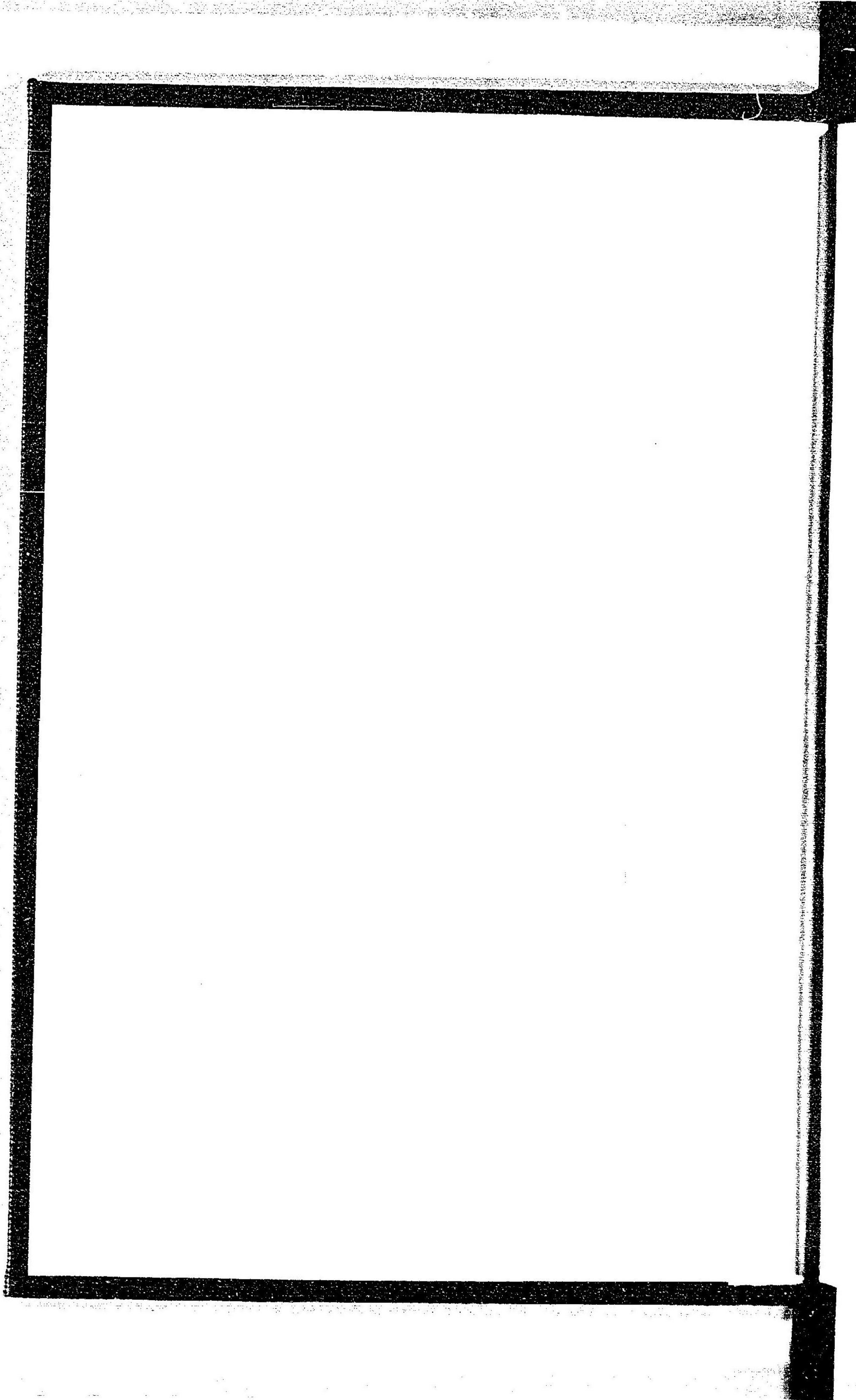
販賣所

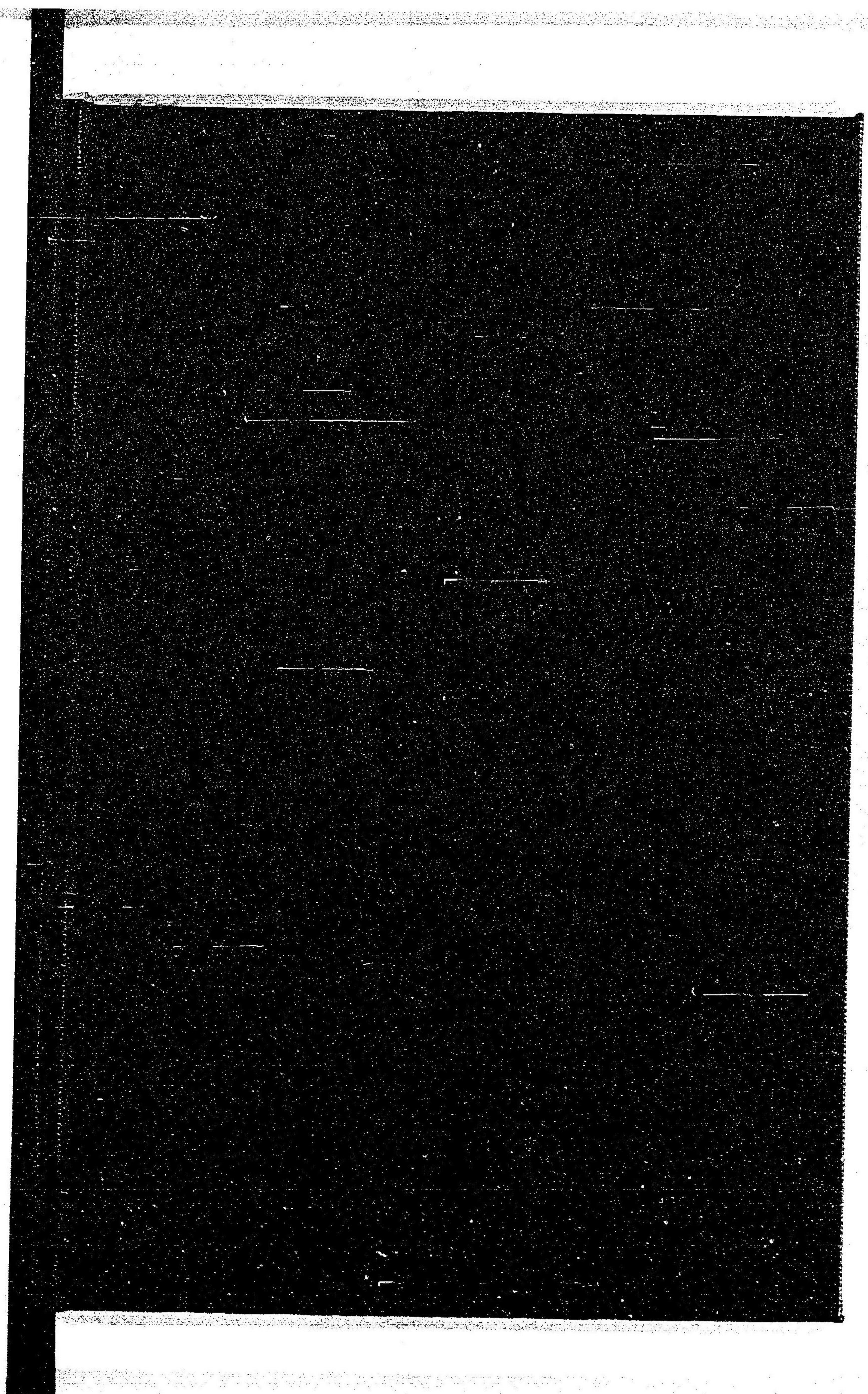
鈴木活版所





Handwritten text, possibly a signature or initials, located in the upper right corner of the document.





禁電子式複写

